

特刊  
A 15 15 15 15



茶  
式  
圖



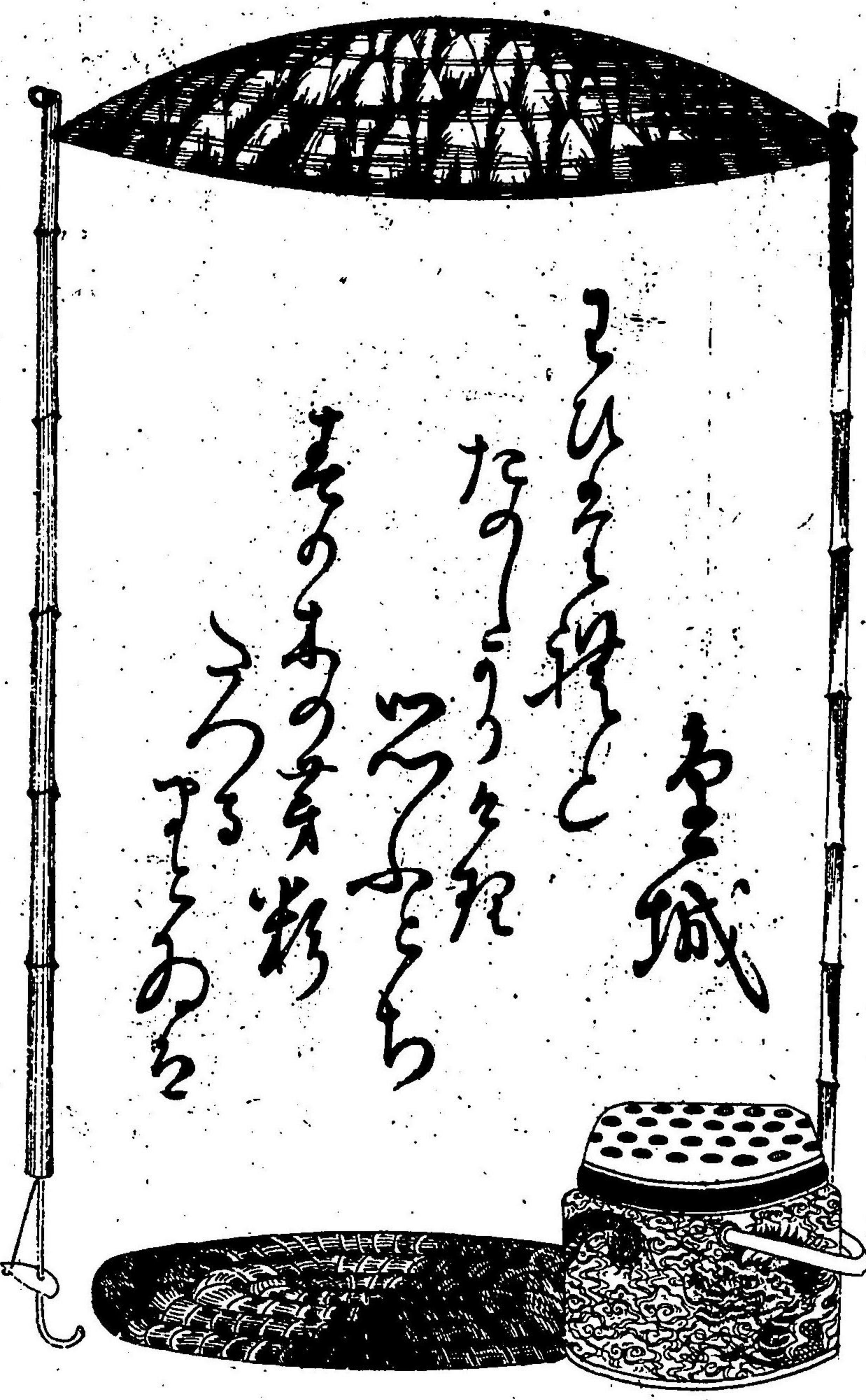


●草菴茶味の解  
 謂鴨喉等の利休の茶式大にぞにり  
 小に豊太開の電通他に茶につて法  
 眼法印にききしるゝしんせいの法  
 居士号を  
 利休宗易居士と稱せり。茶菴の  
 名、時に漢はて茶菴のていふも  
 ありしやうか、しんせいの用は、  
 時休法の時菴とて、さうなつて  
 とつたりしうか、しんせいの用は、  
 了茶ののり、なつて、利休の  
 唐土川とけり、あまのしんせいの  
 は、自前地の茶とて、さうなつて  
 して、さうなつて、利休の茶と  
 書林にいて、利休の茶とて、  
 果法雲の茶、利休の茶とて、  
 説話のたぐひに、利休の茶とて、  
 のり、しんせいの茶とて、  
 とつたりしうか、利休の茶とて、

●茗茶始原  
 上古茶といひ、三種ありしと、漢籍に云ふ、その中、茶といひ、  
 もの、今、茶といふもの、その、漢籍に云ふ、茶、  
 あり、漢に、茶、  
 茗茶、  
 増補茶式湖月抄上之卷  
 湖月老隱 原著  
 大館眠鷗 増補



最初の一



新林居士肖像



しきりてとまを... 居士の肖像... 居士の肖像... 居士の肖像...

この茶にちり... 居士の肖像... 居士の肖像... 居士の肖像...

茶の歴史... 居士の肖像... 居士の肖像... 居士の肖像...

茶の歴史... 居士の肖像... 居士の肖像... 居士の肖像...





ふすちり。たとへば。地階のむら。... どのまは。このまは。... どのまは。このまは。... どのまは。このまは。...

古名近小話  
利休社名千與四郎と称し道陳々の人なり。... 利休の稱は。... 利休の稱は。...

茶果の解  
あまのち。地味。... 茶果の解。... 茶果の解。...

露地の詳解  
露地の草。... 露地の草。... 露地の草。...

あまのち。地味。... 茶果の解。... 茶果の解。...

露地の詳解  
露地の草。... 露地の草。... 露地の草。...

一筆一紙の思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは  
 少くも思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは  
 思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは



思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは  
 思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは

一筆一紙の思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは  
 思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは

思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは  
 思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは

思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは  
 思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは

思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは  
 思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは

**草菴の詳解**  
 思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは  
 思ひをさかきおこし  
 ねがひをまげしむるは



このことにはさういふ理由もなしに  
人としてなにがせだ格にさま  
ひだりてさういふことをなす  
ぬきさういふことをなす  
一考の及人にさういふことを  
ねむ竹の曲をさういふことを  
てさういふことをなす  
一考の及人にさういふことを  
ねむ竹の曲をさういふことを  
てさういふことをなす

●交會の解

實にさういふことをなす  
人おれおれさういふことを  
朝さういふことをなす  
さういふことをなす  
相おれおれさういふことを  
さういふことをなす



●交會主客心要

さういふことをなす  
人としてさういふことを  
ひだりてさういふことを  
ぬきさういふことを  
一考の及人にさういふことを  
ねむ竹の曲をさういふことを  
てさういふことをなす  
一考の及人にさういふことを  
ねむ竹の曲をさういふことを  
てさういふことをなす

さういふことをなす  
人としてさういふことを  
ひだりてさういふことを  
ぬきさういふことを  
一考の及人にさういふことを  
ねむ竹の曲をさういふことを  
てさういふことをなす  
一考の及人にさういふことを  
ねむ竹の曲をさういふことを  
てさういふことをなす

●茶會の要則

一月一日より十五日までの  
大福  
風炉  
名残  
口切

さういふことをなす  
人としてさういふことを  
ひだりてさういふことを  
ぬきさういふことを  
一考の及人にさういふことを  
ねむ竹の曲をさういふことを  
てさういふことをなす  
一考の及人にさういふことを  
ねむ竹の曲をさういふことを  
てさういふことをなす

ていつくは時おはのまのま  
 ともして  
 酒うとまの  
 ちたうの  
 茶うとまの  
 け。とまの  
 た。とまの  
 茶。とまの

正午の茶會  
 夜吐し  
 飯後  
 跡見  
 臨時  
 朝  
 暁  
 獨客  
 眠湖月老隱  
 鷗居士増補

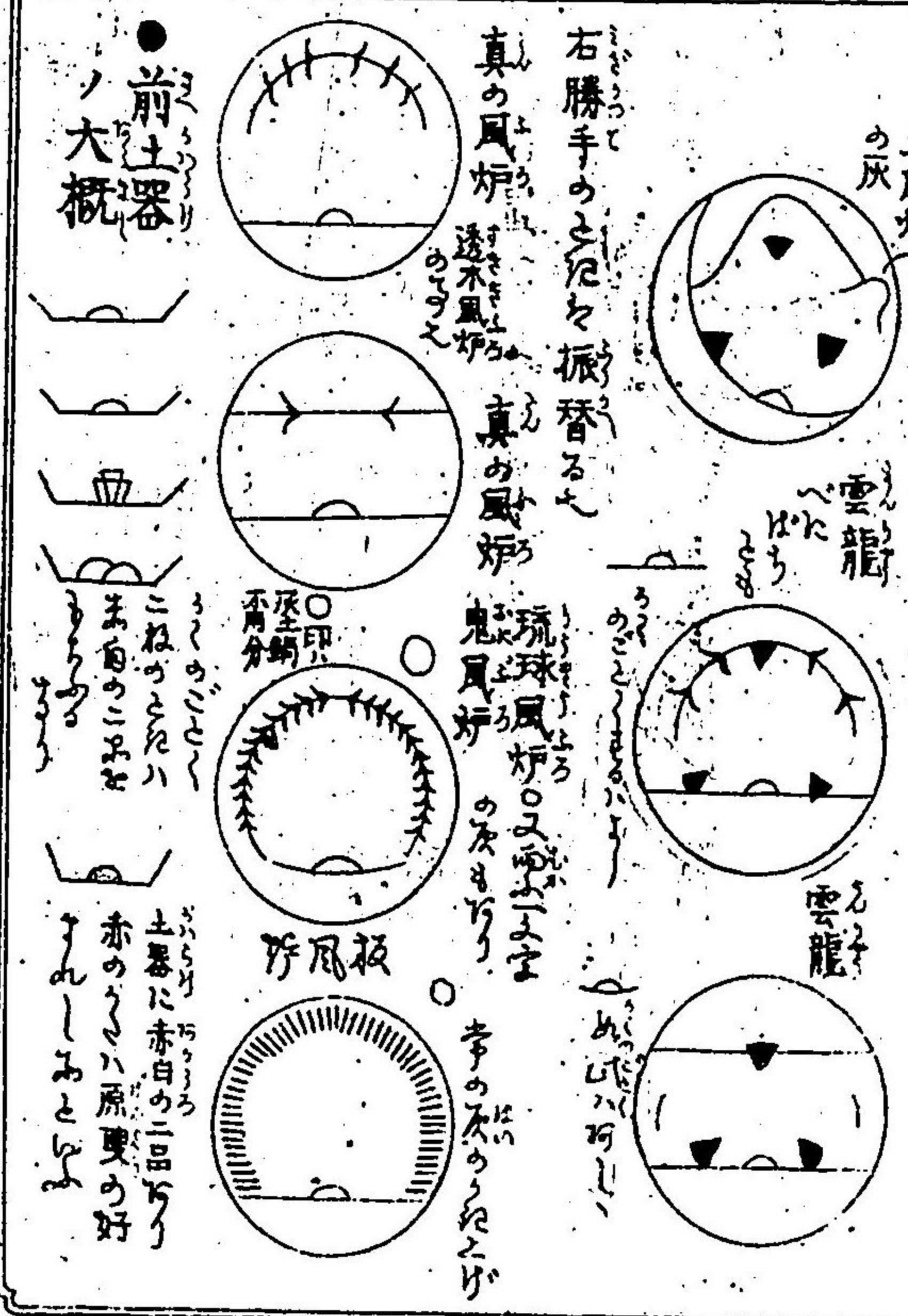
日本茶家美術鑑定真率辨

●茶人系圖

**●珠光** 香業春休心法師小名成言ト  
 云フ兩都茶市檢校ノ男切タリ  
 シ時公地称名寺ノ僧トナル十年余住職  
 シテ年三十ノ後大徳寺ニ至リ一休和尚  
 ニ参学シ自己ノ心要ヲ究明シ数奇  
 妙術ニ至ルツノ頃東山義政公此數  
 寺ノ妙術心要ヲ賞アリテ還俗サ  
 セ三茶ノ道リニ専ラシテ珠光  
 茶ト書シ賜ハリコノ額ヲ打タセラル  
 我邦茶道ノ宗匠ト称スルモノコレ  
 ヨリ始マル歟スル年八十二大徳寺  
 眞珠巷ニ葬ル文明中ノ人

**●真能** 又春鴨齋足利氏ニ仕ヘテ  
 全朋タリ茶礼ヲ善シ書画ヲヨクニス又古

●風爐五徳 灰の事



湖月老隱  
 鷗居士増補

器ヲ鑿識スルヲニ妙ヲ得又ヨク茶  
枚ヲツクルコレ宗師茶枚ヲツクル始  
トス義教公時代ノ人

**真藝** 真藝ノ男藝阿弥ト称シ學堂  
ト号ス足利氏ニ仕ヘテ公朋  
リ茶書画ヨクス

**真相** 真相ノ男相阿弥ト称シ松雪  
ト号ス義教公ニ仕ヘテ全  
朋タリ茶書画ハモトヨリ詩哥モ  
善クス

**空海** 俗稱右近ソノ姓ツマビラカ  
之ヲ北向道陳ニ傳フ

**北向道陳** 本姓荒木塚船  
ニ居ルヲ以氏トス茶法ヲ空海ニ  
ウケテ宗易ニツクテ傳没後コノ人ヲ  
以テ宗匠トス曾テ普通國師ニ  
参シテ南宗寺ノ引獲トナル

**利休** 傳ハ奥ニ  
詳ナリ

**義政公** 足利尊氏八代ノ孫天山公仁  
斎ト号ス文明十五年物シテ  
東山殿ノ稱ヲ賜フ銀閣ヲ東山ニ建テ  
天下ノ名器ヲアツク教寄屋舎ト号シ以  
テスニ茶礼ヲ行フ延徳二年正月七日薨  
ス年五十 慈照院ト諡ス

**宗球** 珠光ノ男南郡ニ住シ印祝齋ト  
号ス後京大茶ニ住ス

**引拙** 又印雪ニツクテ珠光ノ二男後テ  
茶家宗匠ト称ス年七十

**藤田宗理** 下京ノ人珠光ノ嗣ナリ  
引拙歿後宗匠トナル

**竹倉屋紹滴** 泉州堺ノ人引拙  
ノ子トシテ承理ト名ヲトシ

**松本珠報** 永昌坊正深ト号ス落  
西田茶東洞院ニ住ス  
今ナホ松本ノ并ト云モノ残レリ

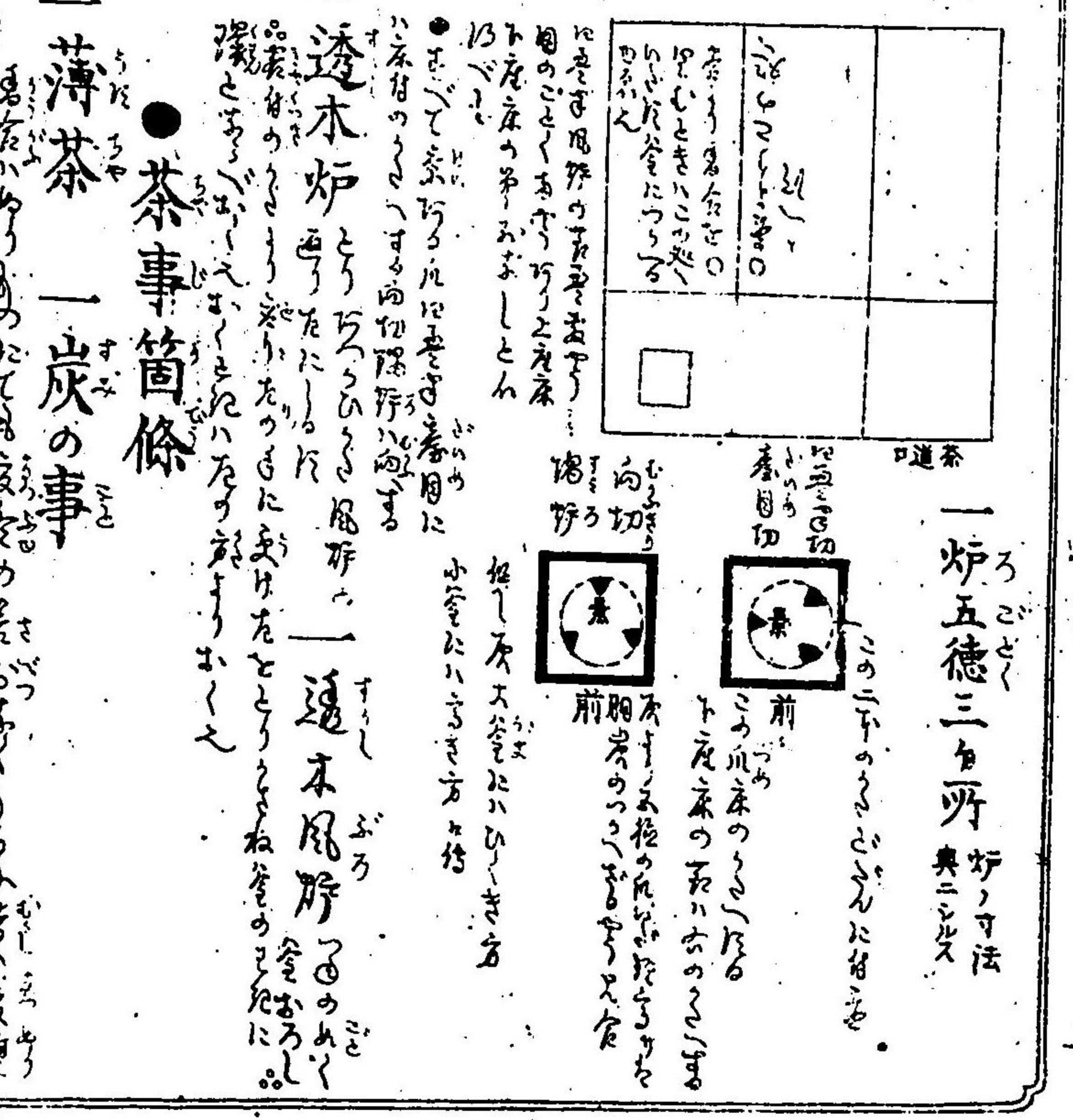
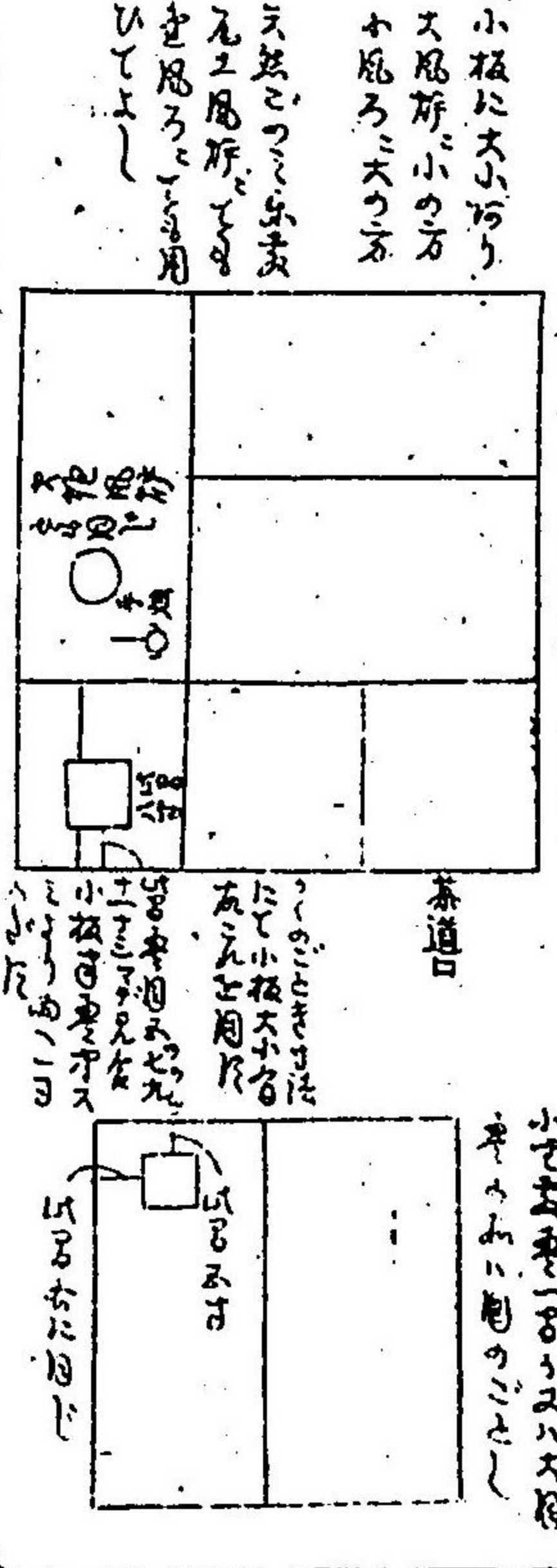
山名氏ノ臣ナリト云フ

**志野道耳** 三條ト書ス塚ニ住ス  
珠光ニ至テ子ノ法ヲ受

一土風炉の敷透本風炉にても居るべき

● 土風炉にて居るべき  
● 土風炉にて居るべき  
● 土風炉にて居るべき

**風炉置所の事** 風炉置所の事  
風炉置所の事



一薄茶 一炭の事

● 茶事箇條

一透本風炉

一透本風炉

一透本風炉

一透本風炉

一透本風炉

又香道  
二遊セリ

志野宗信 京師ニ住ス香道ニ  
道耳ノ嗣ニシテ志野流  
香道ノ祖ト云フ

善海和尚 又粟田口善法ト云フ  
泉州堺石津ニ住ス  
ツネニ手取綱ヲ以テ粥ヲ煮テ茶ノ  
湯ノ釜ニモチテ以テ松清ニ彷彿タルヲ  
聞テ独リ樂シム事ニ

古市澄胤 從五位下播磨守南郡  
官トナル  
孫徳川氏ニツカフト云フ

石黒道提 洛陽千本通ニ住ス子  
孫徳川氏ニツカフト云フ

宗悟 京師六条ニ住ス十四屋休斎  
ト号ス全朋宗際ト茶名ヲ  
付シテス

宗宅 香田屋ト号シ又徳齋ト云フ  
後子徳隣ト云モノアリ茶  
夏ヲ以テ東照宮ニ住フ

肖柏 堺ニ住ス牡丹本ト号シマク  
内府通秀ノ子康子ノ茶香及ビ  
運舟ヲヨソス

珠徳 京師ニ住ス五工之曾テ  
兼テ茶抄ヲウクリテ  
信長ニ  
呈ス

宗伯 津田氏堺ニ住シ  
天王寺屋ト号ス

塩瀬林 南郡ニ住ス  
塩瀬ノ祖

以天 又宗清和尚ト称ス  
大徳寺ノ住職

紹鷗 武野氏初名新五郎後中行  
ト号ス從五位國權守ニ任ズ

初堺ニ住シ後京師ニホリ権陳兩  
居士ニツイテ茶式ヲ受テモテ室町四

居スニツイテ茶式ヲ受テモテ室町四

居スニツイテ茶式ヲ受テモテ室町四

もの茶種  
よくしらす  
向切に  
他し  
一  
二  
三

一 釜へ水とさけり  
本池海桶  
湯桶  
一  
二  
三

一 釜へ水とさけり  
一  
二  
三

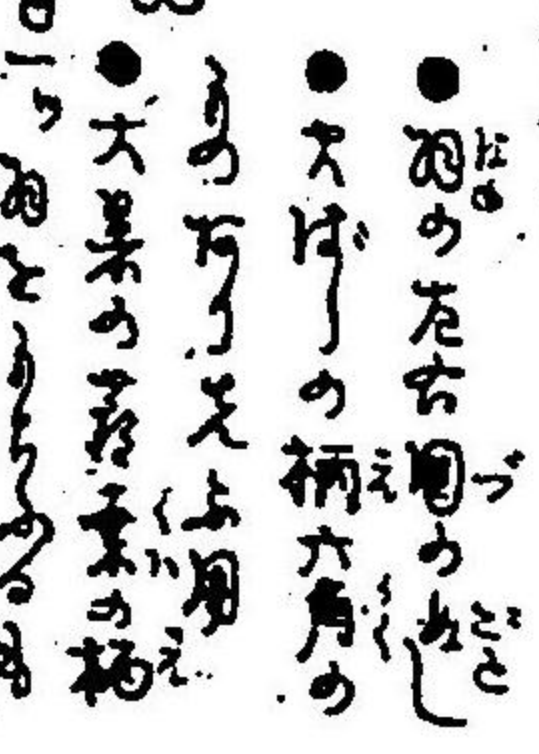
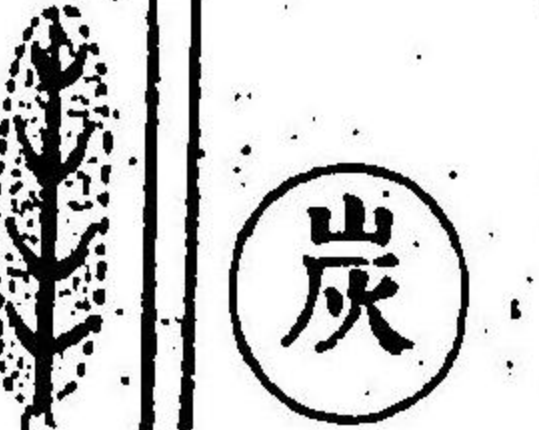
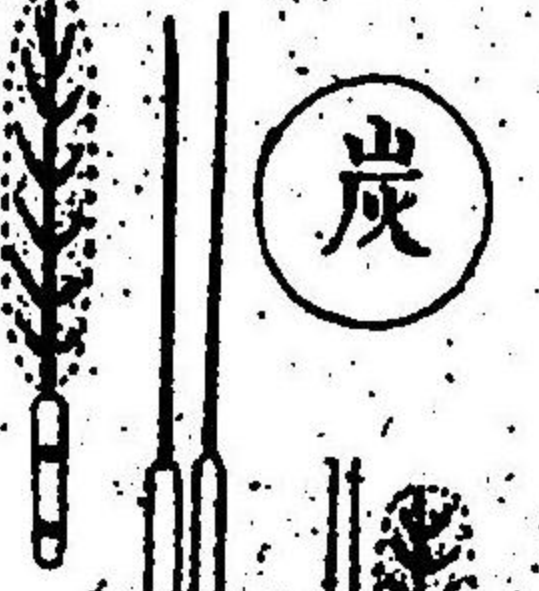
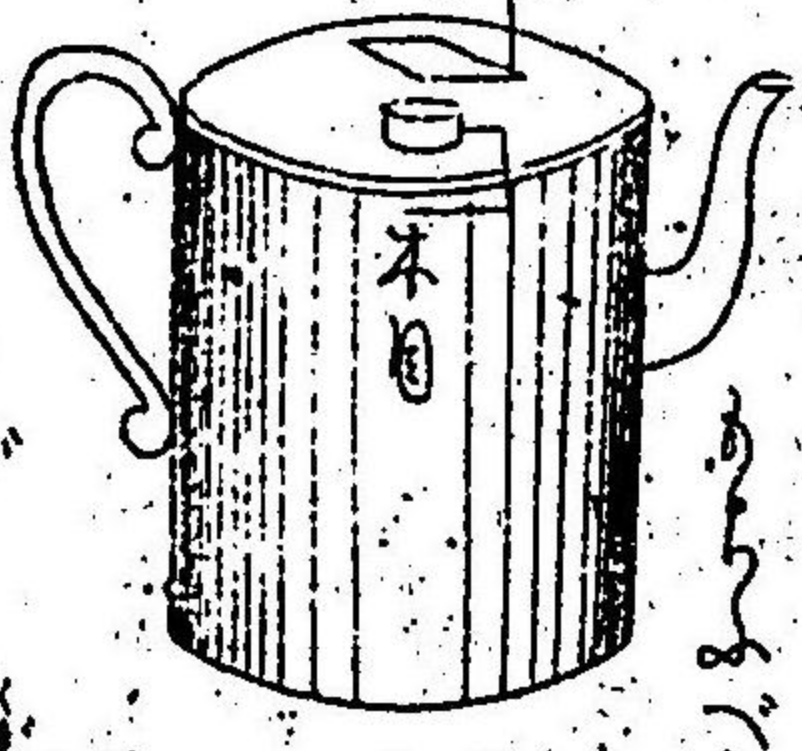
一 釜へ水とさけり  
一  
二  
三

一 釜へ水とさけり  
一  
二  
三

一 釜へ水とさけり  
一  
二  
三

一 釜へ水とさけり  
一  
二  
三

一 釜へ水とさけり  
一  
二  
三



炭  
炭  
炭  
炭

座掃の事  
一  
二  
三

一 釜縁の事  
一  
二  
三

一 釜縁の事  
一  
二  
三

本ノ北ニトス都ト我ノ小祠アリ故  
 二家ニ編シテ大黒巻ト云フ時茶礼大  
 ニ起ルソノ術ヲ利休ニ傳フ後堺ニ故  
 ル弘仁元年乙卯十月九日歿入年  
 五十二堺南宗寺ニ葬ル法号大黒巻  
 一關居士ト云フ

**義輝公** 足利十三代征夷大将  
 軍光厳院殿ト号ス

**宗尾** 武野氏紹興ノ男  
 方寸斎ト号ス早世

**宗朝** 宗元ノ男  
 茨斎ト云

**宗達** 津田氏堺ノ豪富ニシテ天  
 王寺屋大通ト云フ

**宗吸** 宗達ノ男曲直斎天信ト云  
 大徳寺住月和尚ノ人ナリ  
 利休ト名ヲ齊シシ開白秀次公  
 仕テ天正元年八月九日歿ス

**幽齋** 細川氏正四位兵部大輔ニ任  
 シ藤孝ト称ス後祝髪シ  
 テ玄室ニ位ノ法印ト称ス

**宗久** 和州今井ノ人故ニ今井ヲ  
 氏トス紹興ノ塔之量公  
 二任

**宗仁** 長谷川氏刑部法印ト号  
 ス信長秀吉ニ仕テ

**笑岩** 三好廉長ト称ス從  
 五位山城守ニ任ス

**宗久** 和州今井ノ人故ニ今井ヲ  
 氏トス紹興ノ塔之量公  
 二任

**宗燾** 宗久ノ男

**幸順** 洛陽頂妙寺中  
 常住院住職

**日通** 本法寺初僧院  
 十七世住職

**道喜** 川端氏餅屋ト称  
 ス天正年間ト人々

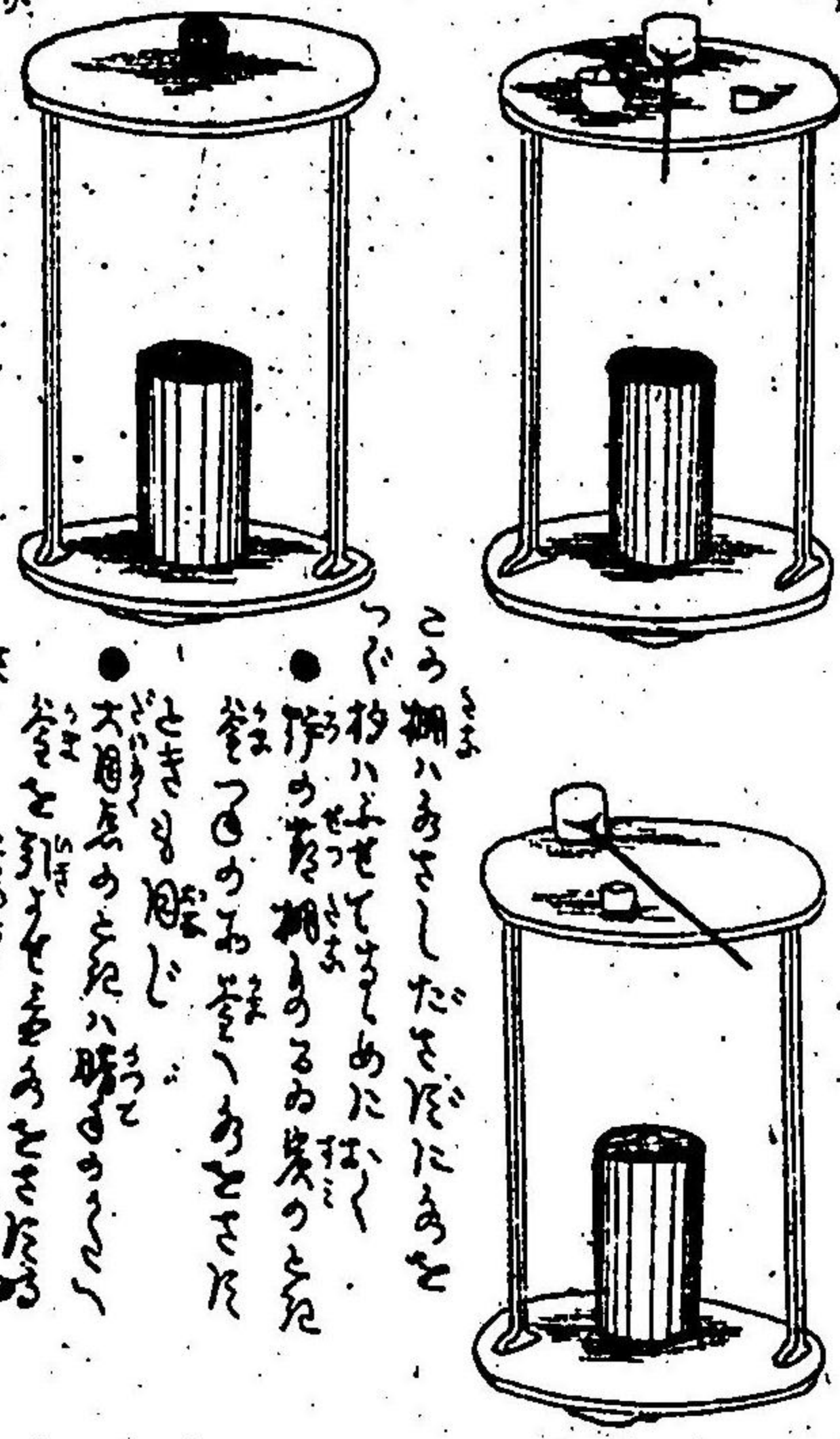
**紹佐** 堺ノ人又此地ニ油屋  
 常神ト云フ人アリ

**宗高** 堺ノ人太子  
 屋ト号ス

一 棚物の事

● 丸卓 利休好

● 丸卓 利休好  
 天保云云云云  
 ● 波茶の製ハ老ウケノ勝ト云フニ  
 ● 九平ノ丸卓ニ是ト云フノモノアリト云フ  
 ハ方ニ成ルガト云フ



法事ノ時ニテハ此ノ丸卓ニテハ  
 ● 此ノ丸卓ハ老ウケノ勝ト云フニ  
 ● 九平ノ丸卓ニ是ト云フノモノアリト云フ  
 ハ方ニ成ルガト云フ

● 四方棚 利休好

● 四方棚 利休好  
 此ノ丸卓ハ老ウケノ勝ト云フニ  
 ● 九平ノ丸卓ニ是ト云フノモノアリト云フ  
 ハ方ニ成ルガト云フ



● 江岑棚 此ノ丸卓ハ老ウケノ勝ト云フニ  
 ● 九平ノ丸卓ニ是ト云フノモノアリト云フ  
 ハ方ニ成ルガト云フ

**道純** 西氏 堺ノ人  
**道察** 小島氏 堺ノ人  
**宗悦** 塩屋ト号ス 堺ノ人  
**宗佐** 塩屋ト号ス 堺ノ人  
**道琳** 細子屋ト号ス 堺ノ人  
**宗悦** 草野屋ト号ス 堺ノ人  
**宗三** 三好希雲ノ 男ナリ  
**平利休** 初ノ納屋与四郎ト称シ 堺今市坊ノ人ナリ  
 世ハ田中氏ノ先ハ足利氏ニ仕ヘテ 全朋タリ名ヲ千阿弥ト云ヨツテ後 千氏ニアラタム地茶利休居士ト 号ス曾テ普通回師前髪ノ弟子トナル則チ法諱ヲ受ク茶道ヲ道

陳紹誠ノ二居士ニツツネ之ヲ大成ス蓋シ 茶道ヲシテアラシムニ曰クヨク和シニ 二曰クヨク敬シ三曰クヨク清ク四曰クヨク 寂ト茶祖珠光ノ故事ニヨツテ立ル 秀ト云フ遂ニ茶道ヲ以テ右所信長 公ニ仕ヘ後大開秀吉公ニ仕フ三千石ヲ 賜ヒ命ヲ受テ茶法ヲ既定ス撰茶種 否ノ精一モ捨ツベキモノナリソノ法ヲマネク 海内ニ行ハル列國ノ諸侯ニ重セラレ 百世ノ宗師ト称ス天正十九年二月ニ 十八日歿ス年七十四歳野聚光院ニ 葬ル

**道安** 利休嫡男初ノ紹安ト云 又宗安ニツクル眠公翁ト 号ス天正十五年七月歿ス聚光院 ニ葬ル

**長重** 金森氏

**宗和** 金森氏居ヲ京洛トシ 剃髪シテ法印ニ任ス 天明二年四月卒ス

**● 茶棚** 利休形  
 老茶葉の茶野棚と相違  
 ちつしんもの  
 揚子の袋の中に入りひざる  
 貨の茶葉は

**● 天井飾物**  
 一層のふいごをうけ  
 一層のふいごをうけ  
 一層のふいごをうけ

**● 三重棚** 宗全好ハ一間張ノ原更好ハ桐  
 香炉 右に用じ  
 炭斗 科紙硯  
 香合 香合  
 香合 香合

知心好ハ末  
 杓ハ作ぬにおし

**● 茶棚** 利休形  
 老茶葉の茶野棚と相違  
 ちつしんもの  
 揚子の袋の中に入りひざる  
 貨の茶葉は

**● 天井飾物**  
 一層のふいごをうけ  
 一層のふいごをうけ  
 一層のふいごをうけ

**● 三重棚** 宗全好ハ一間張ノ原更好ハ桐  
 香炉 右に用じ  
 炭斗 科紙硯  
 香合 香合  
 香合 香合

知心好ハ末  
 杓ハ作ぬにおし

●**策傳** 京都善願寺中竹  
林院三住ス寛永十

九年正月八日卒ス

年八十九

●**了祐** 古筆氏初八兵エト  
祐ス

●**祐滋** 小河左馬助ト祐ス  
兼々奉ト号ス伊  
与今治ノ城主

●**重長** 兼山左近大夫ト祐ス  
制髮シテ宗仙ト号  
ス又洞雲

●**貞昌** 片桐石見守宗開ト  
祐ス弟子多シ系  
圖下ニイダス

●**宗淳** 子兄道安病氣アル  
チ以テ家ヲ統ケ慶長十九年  
九月七日歿ス紫野聚光院

ニ葬ル  
元伯マタ元叔ト号シ今日  
●**宗且** 香出齋ト稱ス宗淳ノ弟  
初ニシテ紫野聚光院ニ喝食タリ後  
豊公ノ命ヲ以テ千家ノ義ノ具コレ  
ク賜フ後チ寺ヲイデ、宗淳ノ家ヲ  
ツグ性隠ヲ好ミ宗和ノシクハズ  
フカク祖父ノ意ヲ得テソノ心汲々  
トシテ止マズ茶更ヲ以テ己ガ任  
トシ大ニ家色ヲフルヲ治元年  
十二月十九日歿  
ス年八十一

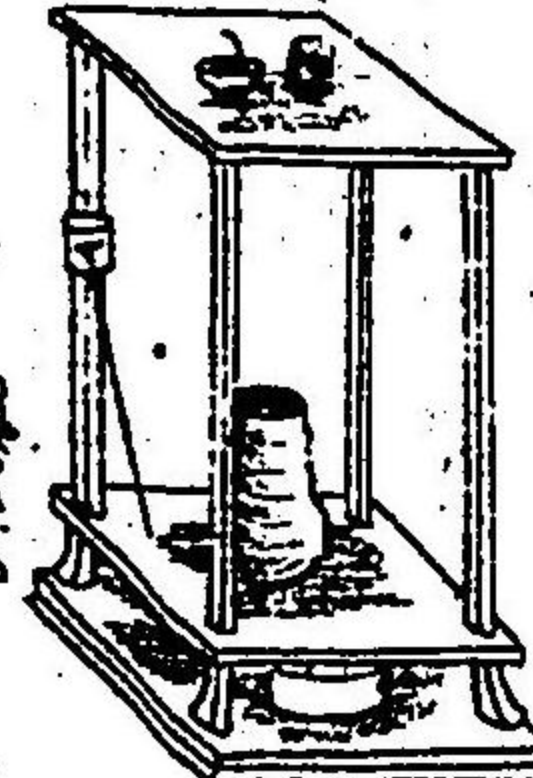
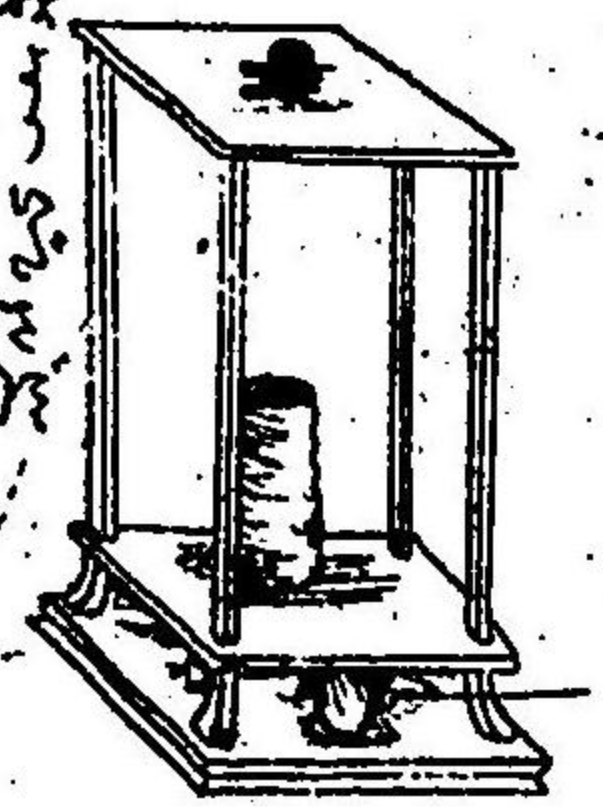
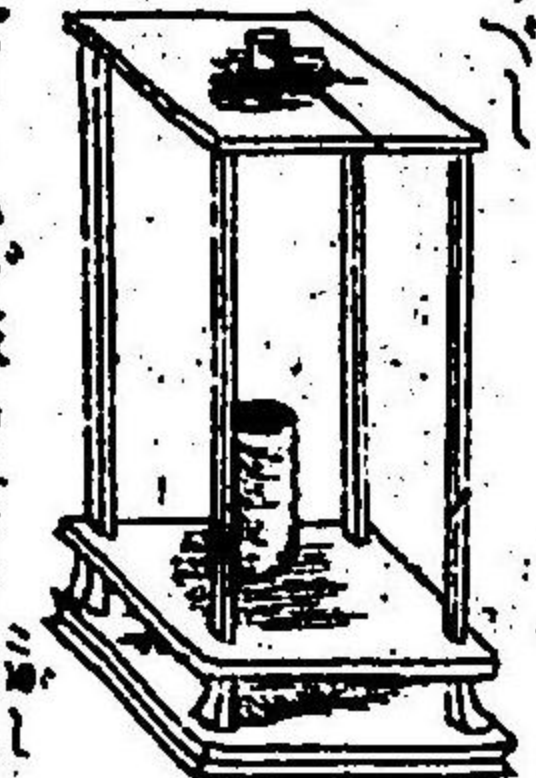
●**山科宗甫** 宗且ノ弟ノ山  
科ニ住ス又茶  
号ト

●**宗拙** 開縁重天ト号ス且ノ  
弟ニヨシ和陸ス  
兼應二年歿ス

●**宗佐** 江岑ト号スマタ堪  
笑軒蓬溪齋不器

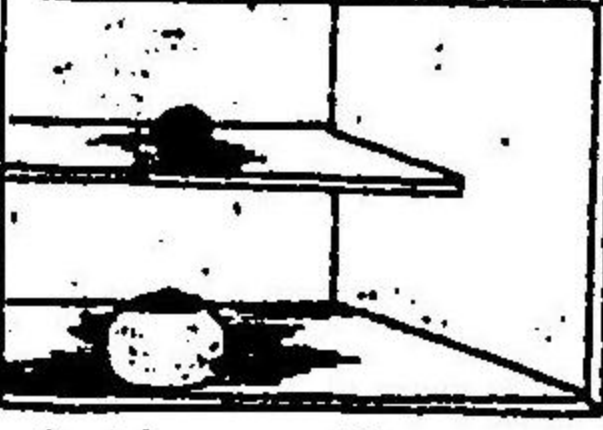
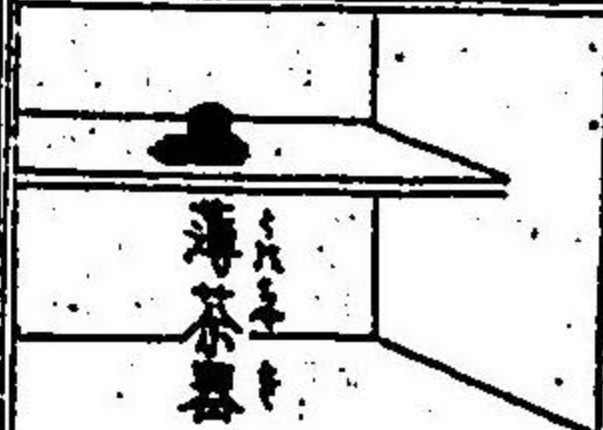
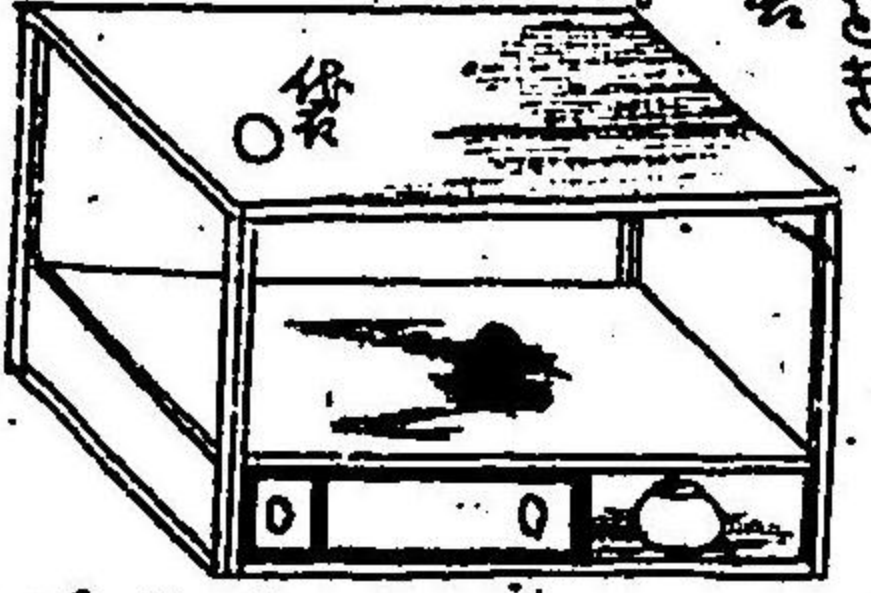
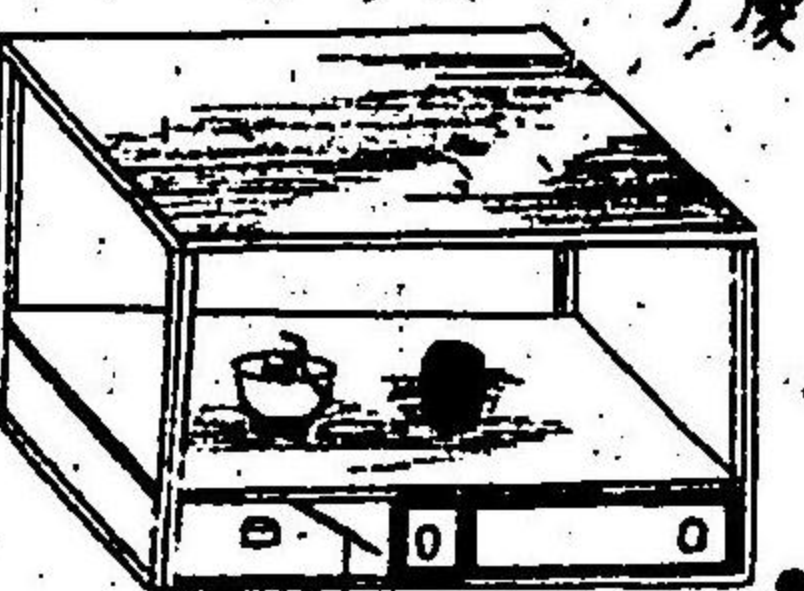
●**高漫卓** 如心好  
眞塗一閑点様ヲ棚ノ通  
因ハ奥ニイリ

●**末小卓** 仙居  
こがわハ作内テカシマシクハ



●**紹鷗棚** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**後坐** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**初坐** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**香合** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**海茶器** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**仙居** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**如心好** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**眞塗一閑点様** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**因ハ奥ニイリ** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ

●**道幸**



●**後坐** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**初坐** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**香合** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**海茶器** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**仙居** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**如心好** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**眞塗一閑点様** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ  
●**因ハ奥ニイリ** 〇こがわハ天草庵トシテ子孫ガ奉ル所ニイリハハハ

初ト称ス且ニ子世ニコレヲ  
古宗佐下云フ後テ紀州彦住  
ノ寛文十二年  
十月歿ス

●宗佐  
初ノ宗巴ト云フ良休  
齊ト号シ隨流ト称  
ス江岑ノ男不實者トモ号ス紀伊  
傳ニ

●宗巴  
文流齋三市ト号ス  
良ノ男

●宗佐  
天然如心齋ト号ス軒  
ト号ス服叟ノ男ト  
第一灯ト茶道トモ号ス式  
ヲ定メ家吉大ニ鳴ル寛文  
四年八月十三日歿ス

●宗佐  
天然ノ男ノ文化中  
ニ歿ス

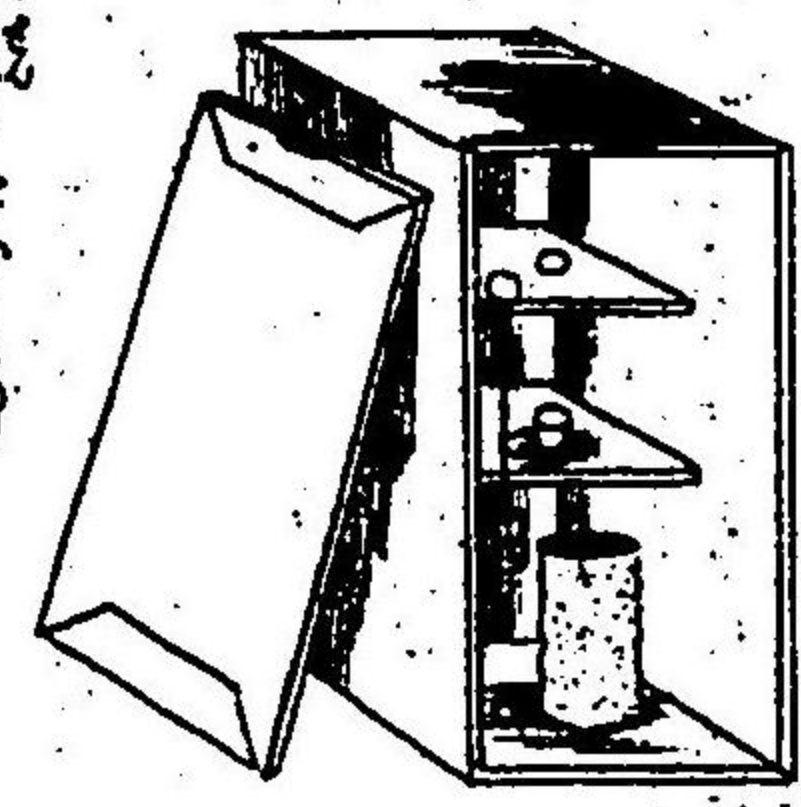
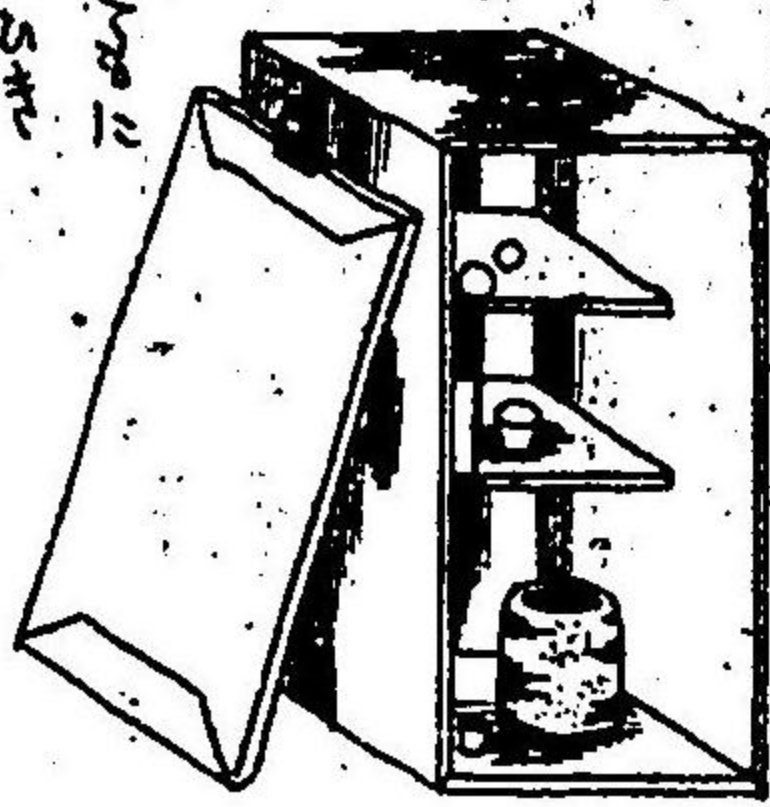
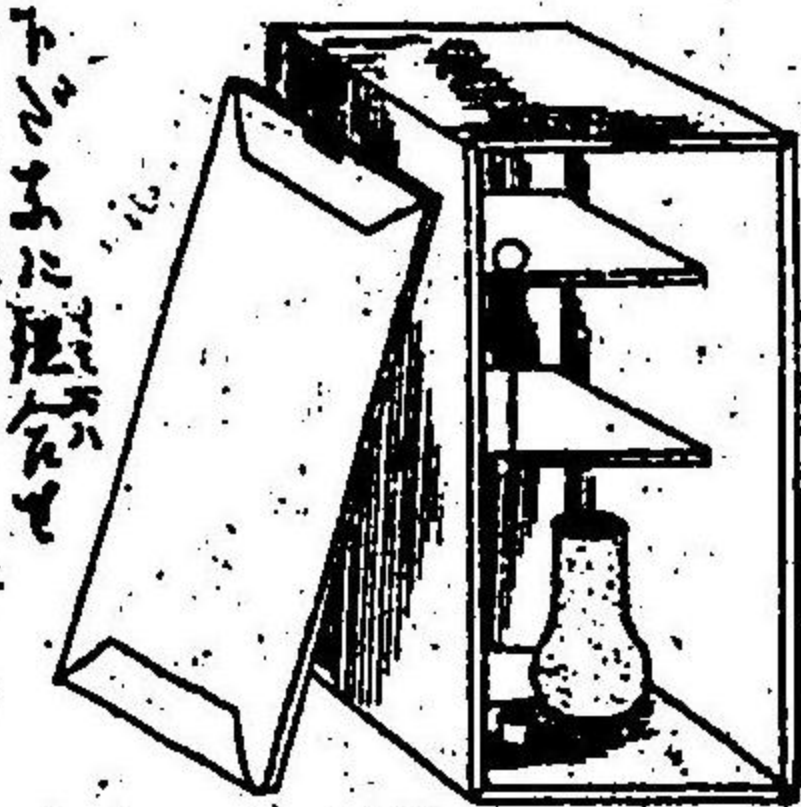
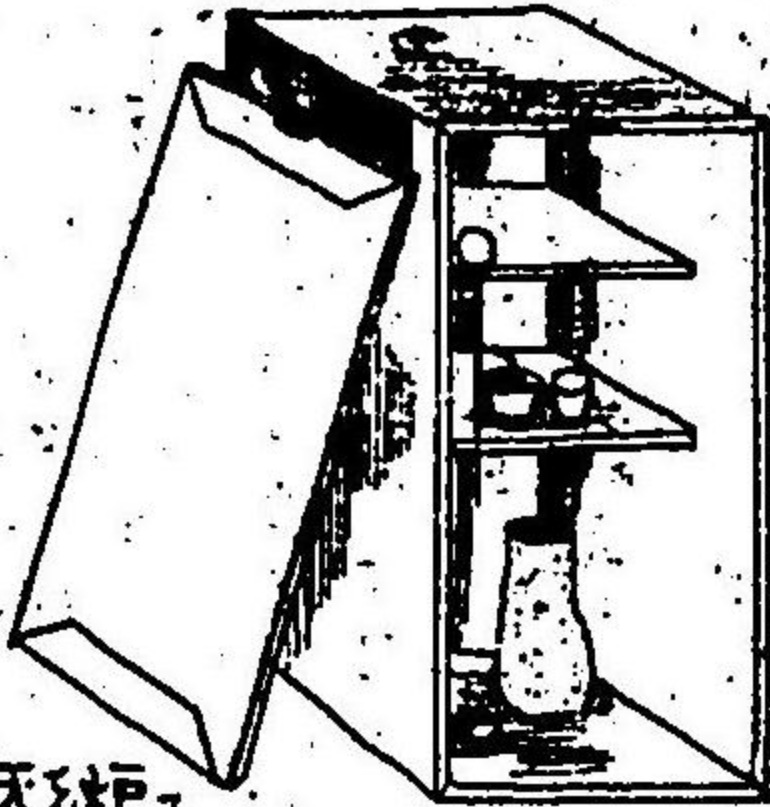
●宗左  
不々斎ト号ス叫南  
ノ子實ハ久田宗慶ノ  
別文政八年歿ス

●宗左  
淡江斎ト号ス不々斎  
ノ子實ハ久田宗隆ノ  
別文政八年歿ス

●宗左  
不々斎ト号ス淡江斎  
ノ子實ハ不々斎ノ主人

●宗室  
且ノ三子素服トス加  
川侯ニ任フ不家人實ニ住スル  
ヲ以テ世ニ真家ト称ス元禄十  
年正月歿ス

●旅軍筒  
利休好



●お茶と酒の入れ物に注意  
お茶と酒の入れ物は、旅軍筒の内部にしっかりと固定され、揺れや衝撃から守られるように設計されている。また、蓋の密封性も非常に高く、湿気や空気の侵入を防ぐことができる。

●天井飾り物の通し

●高橋車



●高橋車の構造  
高橋車は、天井から吊り下げられるように設計されており、移動がスムーズに行われる。また、内部には荷物や乗客のためのスペースが確保されている。この車は、長距離の旅や商取引に非常に便利な乗り物であった。

●高橋車の改良  
高橋車の改良は、乗客の快適性を向上させることに向けられていた。例えば、天井の吊り下げ機構を強化したり、内部の装飾を豪華にしたりするなどの工夫が行われていた。

●高橋車の歴史  
高橋車の歴史は、日本の交通手段の発展と密接に関連している。古くは、戦国時代から江戸時代にかけて、長距離の旅を支える重要な乗り物として使われていた。



三代 不休庵常叟ト号ス  
石ノ宗 宛仙叟ノ男也  
後伊豫松山侯ニ仕テ宝永九  
年卒ス

宗安 常叟ト号シ六郎頼ト  
稱ス常叟ノ子松山侯  
ニ仕テ享保十二年  
八月廿二日卒ス

宗乾 常叟ト号シ六郎頼ト  
稱ス常叟ノ子享保十  
八年卒ス

宗室 初々軒一燈ト号ス或ハ  
玄斎梅金堂ト称ス宗  
乾ノ養子実ハ弟之明和八年  
二月二日卒

玄室 不眠斎石翁ト号ス一灯  
ノ男享和元年九月卒ス

宗室 認得齋柏叟ト号ス  
石翁ノ子又政九年八

月廿四日歿ス  
年五十七

宗玄 石翁ノ二子  
次門ヲ起ス

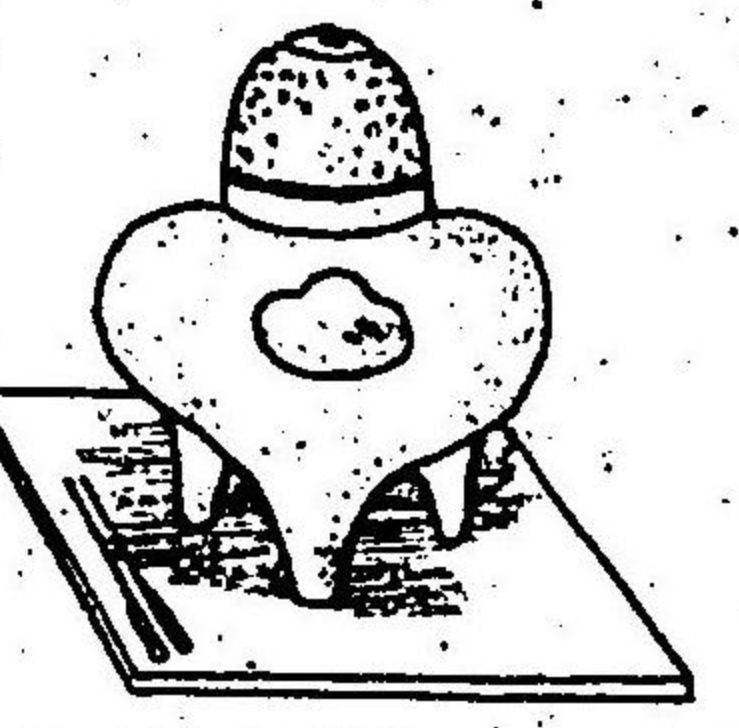
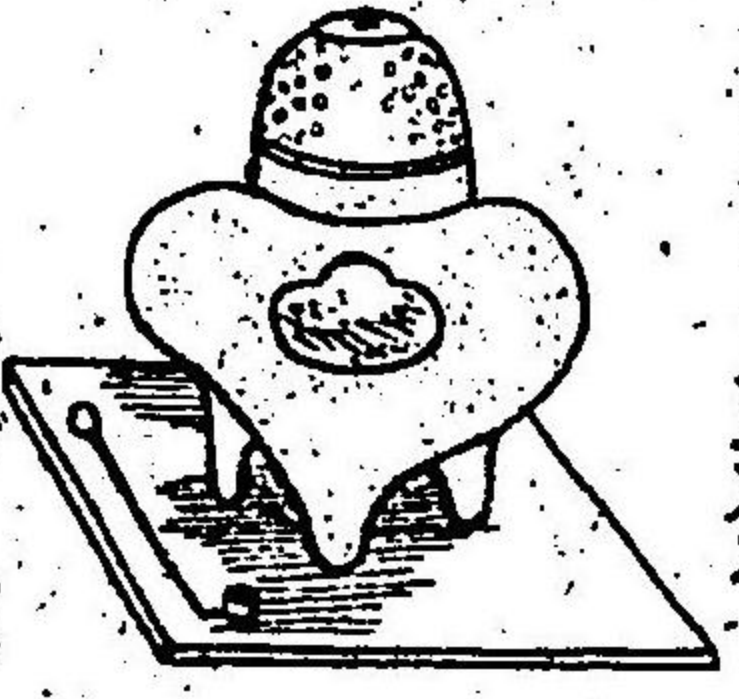
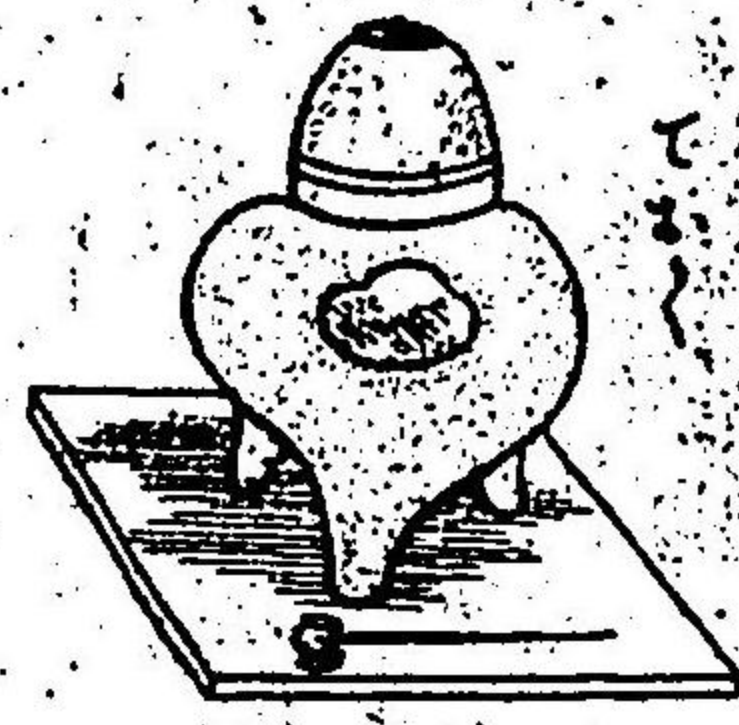
宗什 石翁ノ三子 暖齋宗守  
ノ養子トナル

宗室 玄々堂精中ト号シ又  
屋白斎不惑ト称ス  
相叟ノ孫子実ハ尾州藩渡  
辺来ノ男明治十年七月十一日  
歿ス年  
六十八

玄室 又妙齋ト号ス精中  
ノ男 現今今  
町巻ノ主人

大板 利休好

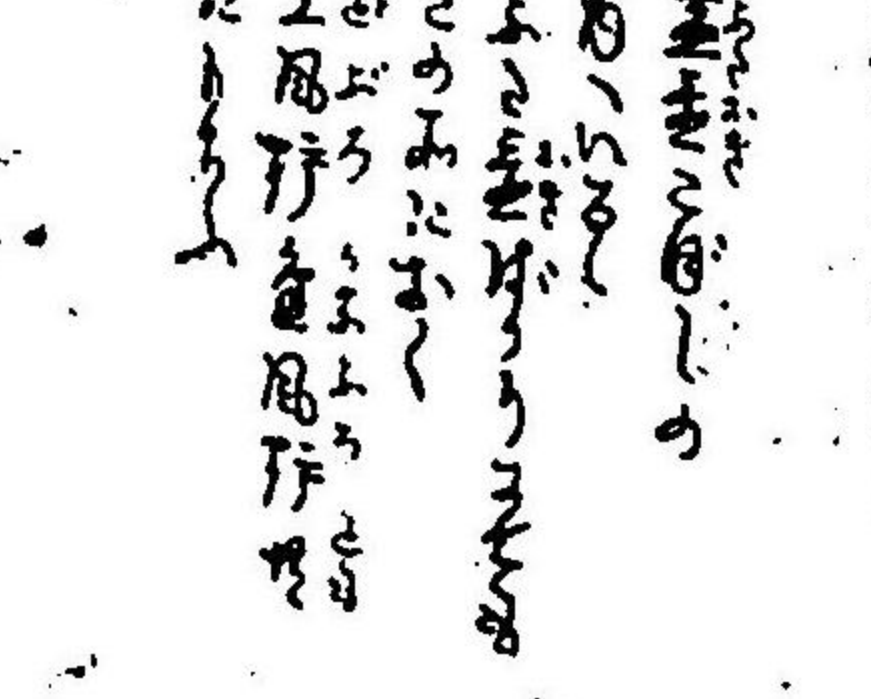
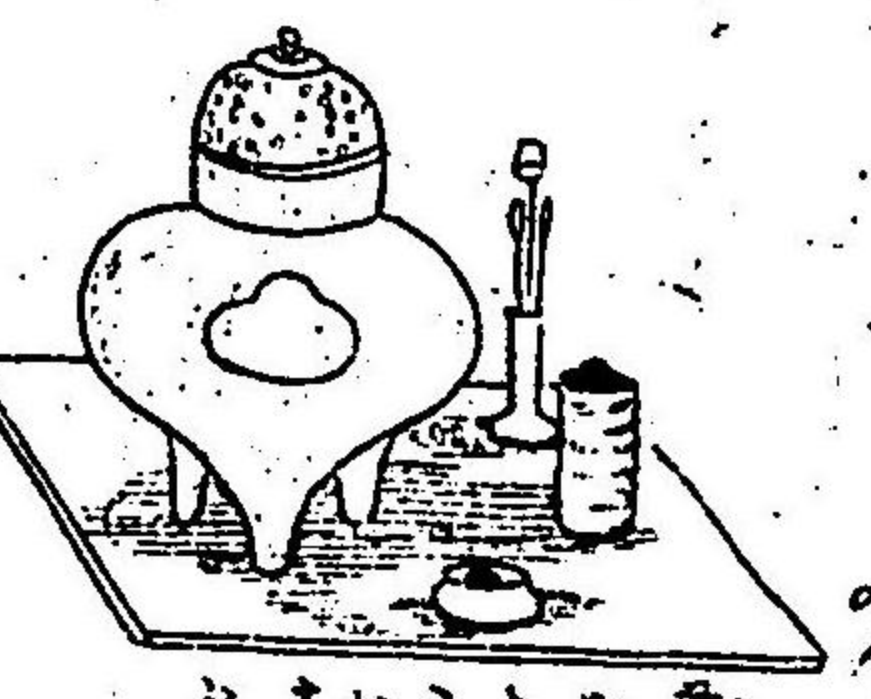
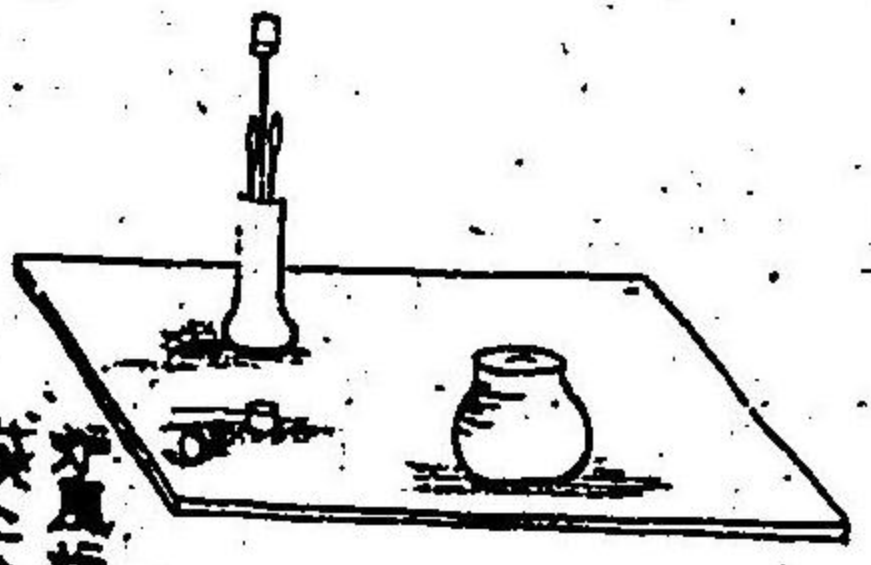
● 煎茶ノ具ハ凡ハ目ノことニシテ其ノ中ノ大板ハ一ツトシテ  
● 煎茶ノ具ハ凡ハ目ノことニシテ其ノ中ノ大板ハ一ツトシテ  
● 煎茶ノ具ハ凡ハ目ノことニシテ其ノ中ノ大板ハ一ツトシテ



● 煎茶ノ具ハ凡ハ目ノことニシテ其ノ中ノ大板ハ一ツトシテ  
● 煎茶ノ具ハ凡ハ目ノことニシテ其ノ中ノ大板ハ一ツトシテ

長板 利休好

● 煎茶ノ具ハ凡ハ目ノことニシテ其ノ中ノ大板ハ一ツトシテ  
● 煎茶ノ具ハ凡ハ目ノことニシテ其ノ中ノ大板ハ一ツトシテ



臺子七飾

- 一 四本柱 小水口
- 一 二本柱 小室且始
- 一 一本柱 小室且始
- 一 高麗臺子 宗且始
- 一 竹臺子 宗光始
- 一 二本柱 大臺子トモ云
- 一 臺子風炉 小室且始
- 一 真塗臺子 小室且始
- 一 一本柱 大臺子トモ云
- 一 高麗臺子 宗且始
- 一 竹臺子 宗光始
- 一 二本柱 大臺子トモ云
- 一 臺子風炉 小室且始
- 一 真塗臺子 小室且始

信長公

茶礼ヲ好ミ紹興  
利休ヲ召ス

秀吉公

茶礼ヲ好ミ利休ニ  
命ジテコレヲ改定セ

礼大イニ備ハル

古田織部正

名重勝印  
斎ト号ス

茶道一演ヲ起シ  
門人多シ

小堀遠江守

名ハ政一宗南  
ト号シ遠州

流祖ナル正保四年二月六日卒

孤蓬暮三葬ル

家光公

徳川三代將軍大猷院ト  
謚ス茶更ヲ好ム

政俊

小堀氏政一ノ男

政尹

政一ノ男  
政貴 政一  
三男

江月 親氏

信海 親氏

甫齋 上柳氏

土屋相模守

道溪 林氏

賢菴 竹林氏

宗固 柳川氏

了雪 古華氏

狩野守信 西家

佐川田昌俊

正玄 黒田氏

宗舟

舟越伊豫守吉勝ト林ス  
寛文十年九月卒ス

松平忠雄

池田氏備前岡山ノ城主  
正四位守少輔ニ任ズ  
三新太郎少将ト云

加々爪甲斐守

一 爪越臺子 芥風ガ

一 及臺子 芥風ガ

一 竹臺子 芥風ガ

一 高臺子 芥風ガ

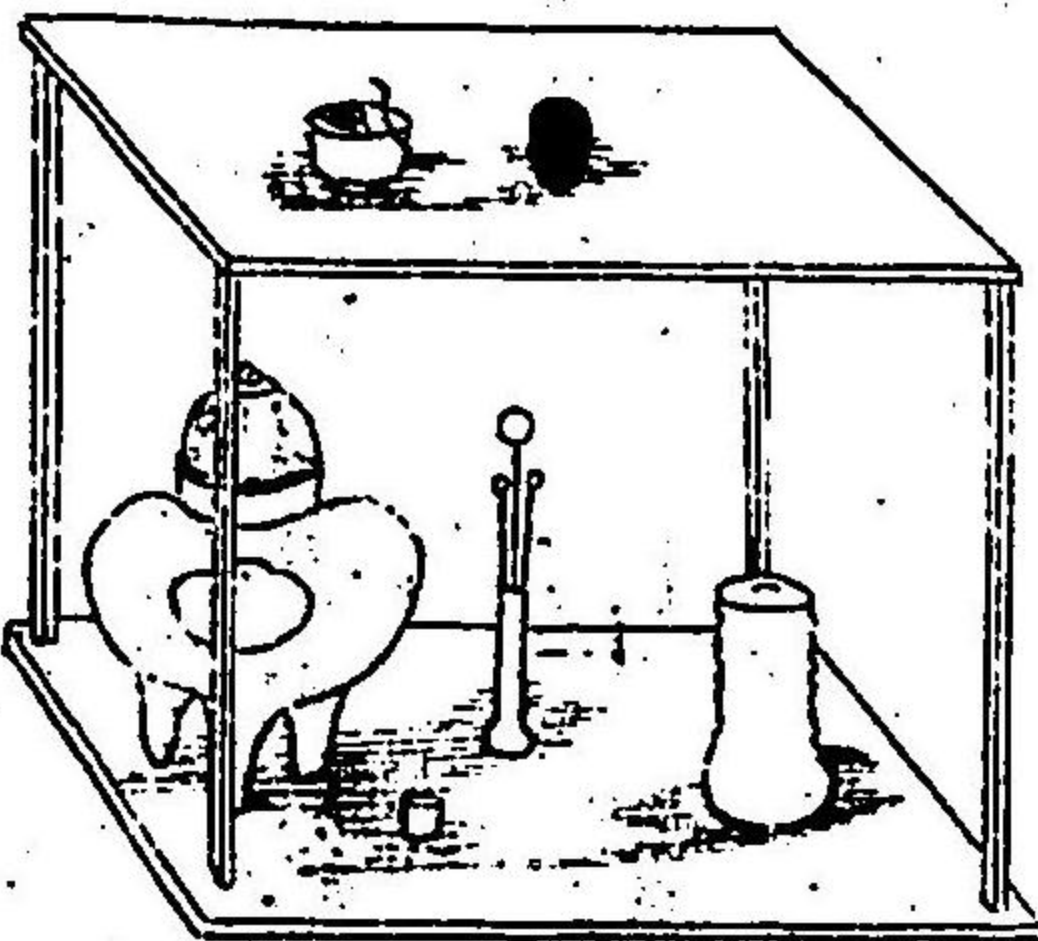
● 臺子長板火鉢ト云フハ...

● 臺子ノ...

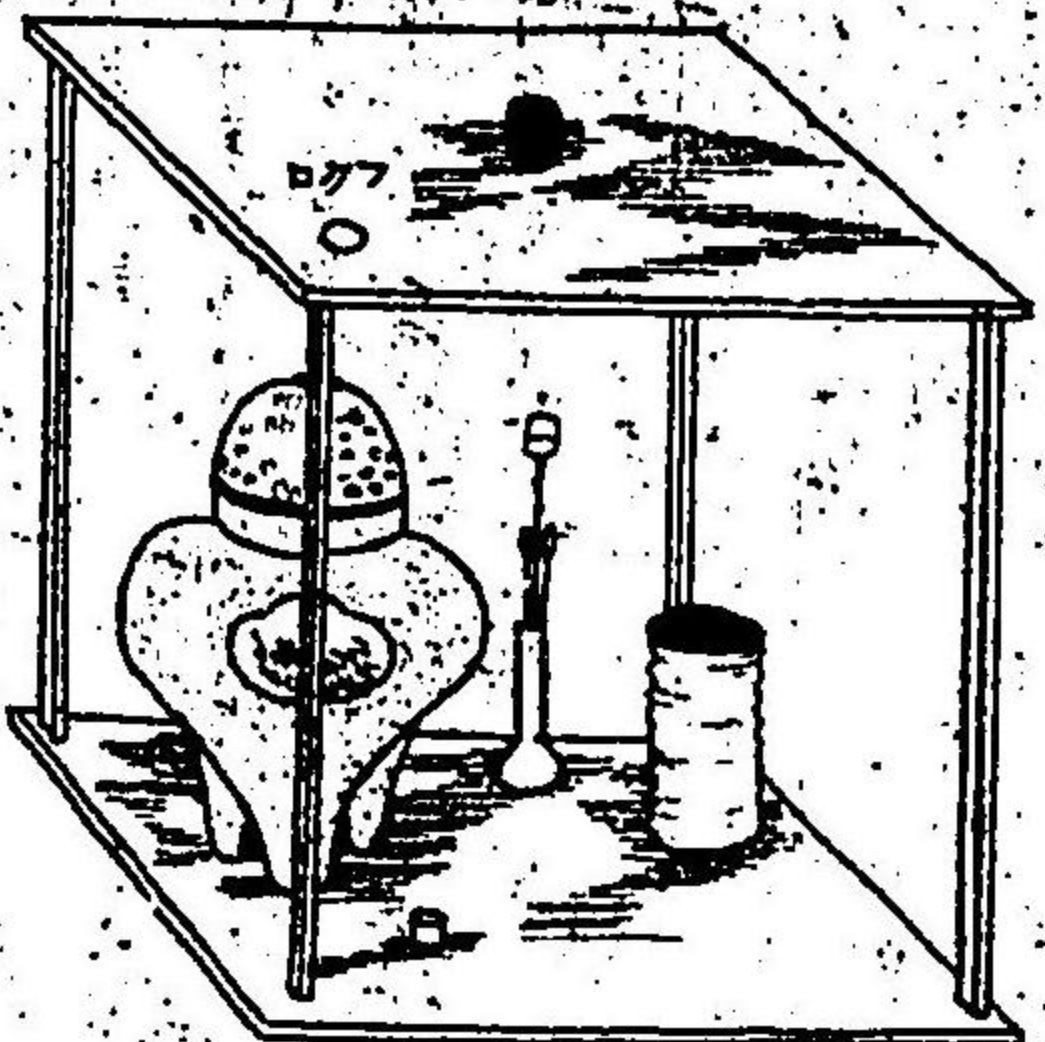
● 臺子ノ...

● 好炭ノ...

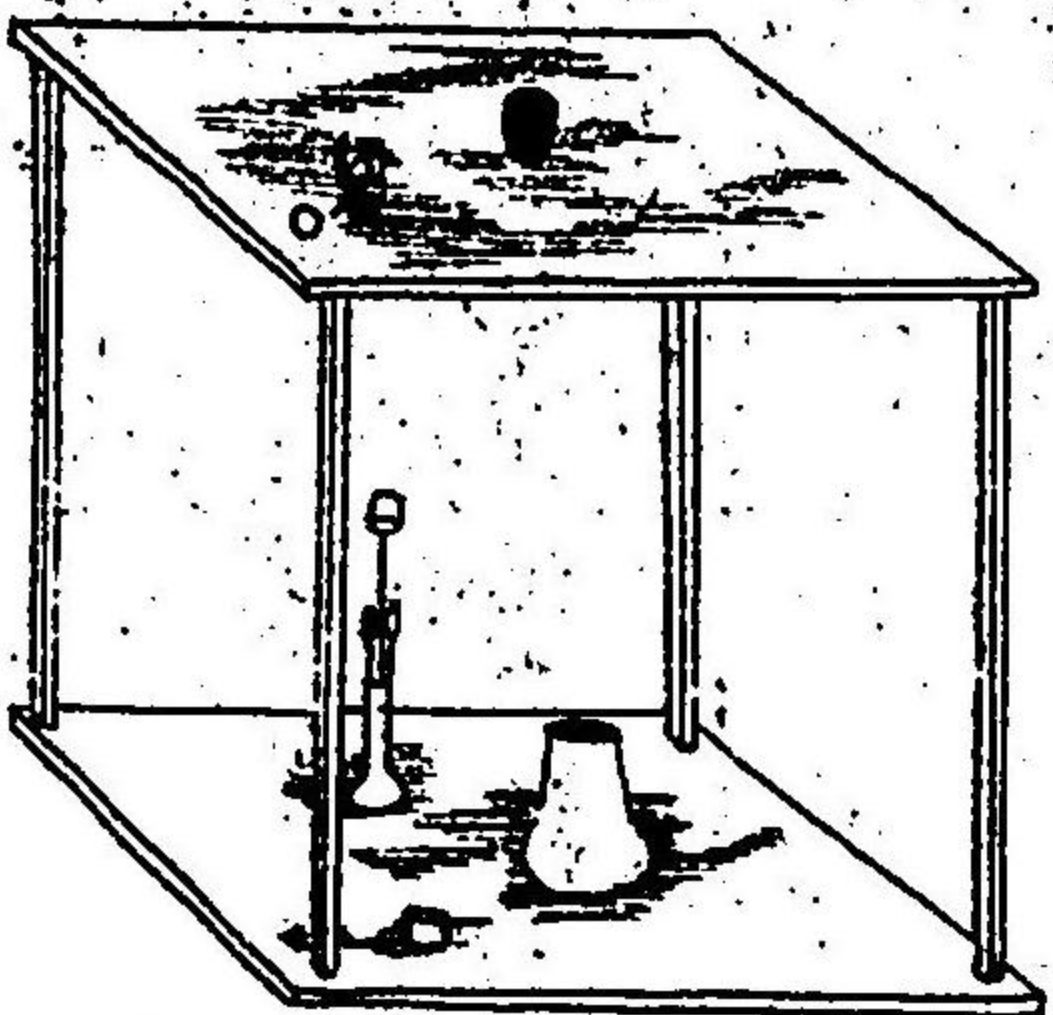
● 好炭ノ...



● 好炭ノ...



● 好炭ノ...



● 好炭ノ...

神尾備前守

大有山田 宗鳳 青木氏

大森濟斎 全休信

勅修寺高野卿

● 兼内紹智 創神ト号ス 利休上足ノ弟 子兼内流ノ祖トス寛永一五年五月七日卒ス

年八十七

● 紹智 又兼内ト号ス

● 紹智 創 紹智 創

● 紹智 竹 紹智 竹

竹の子老實ト号ス寛政年間卒ス

● 竹基子 米光若

● 竹基子 米光若

● 竹基子 米光若

● 竹基子 米光若

● 竹基子 米光若

● 竹基子 米光若

● 竹基子 米光若

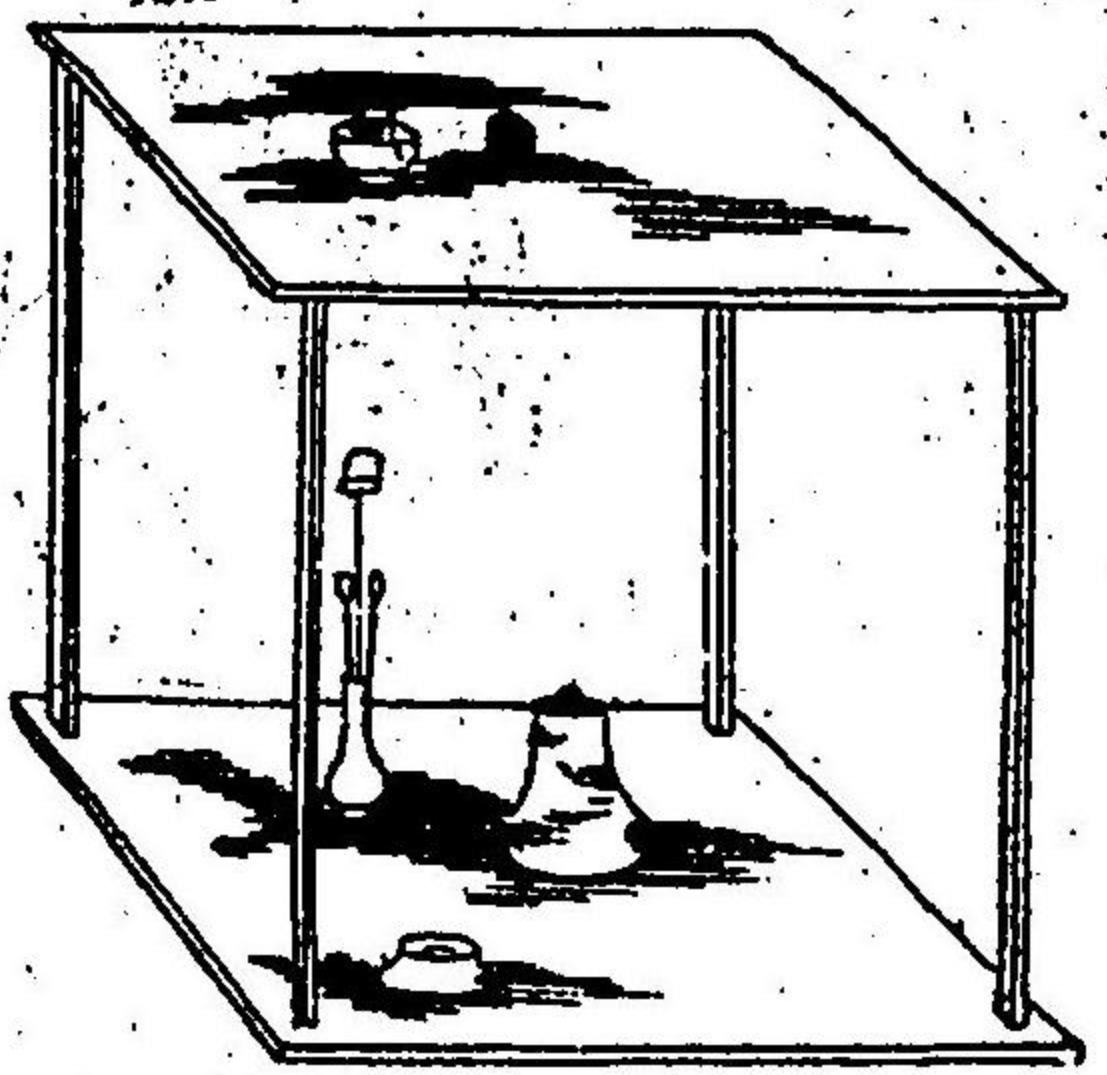
● 竹基子 米光若

● 竹基子 米光若

● 竹基子 米光若

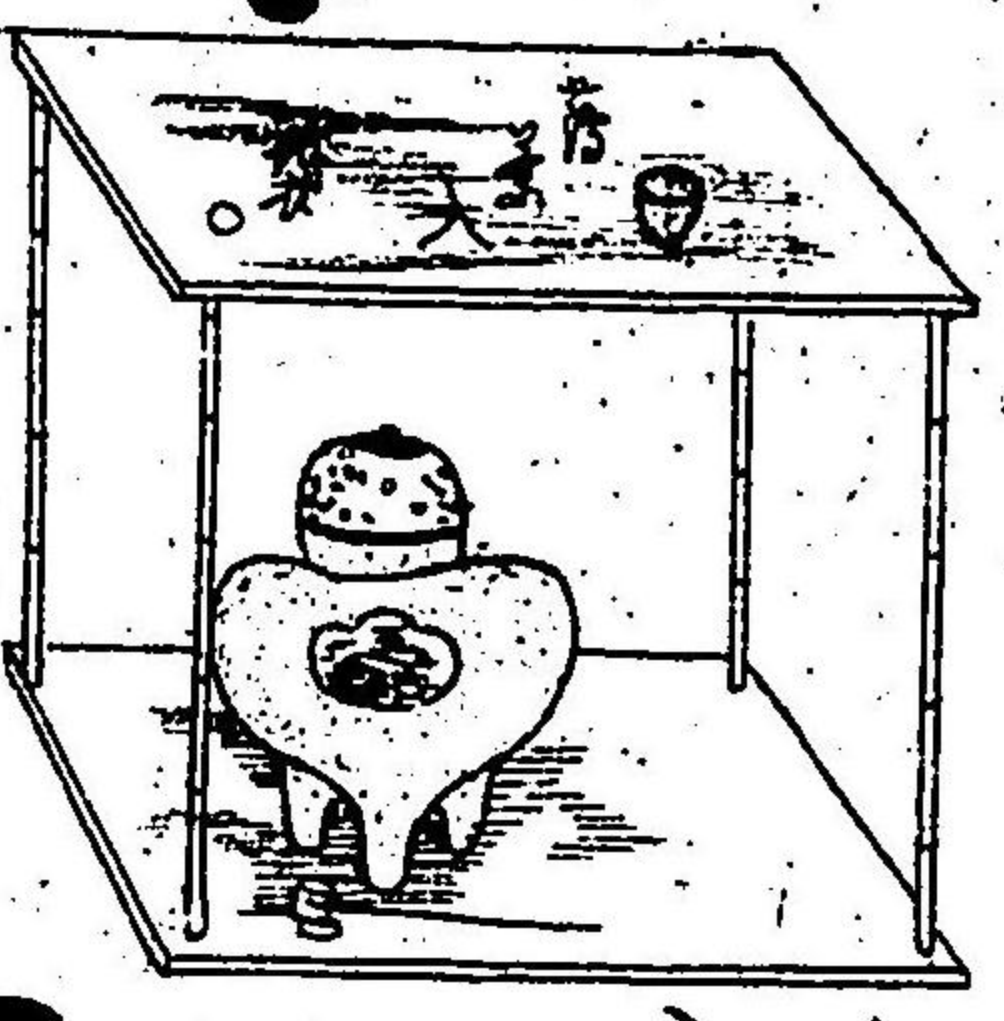
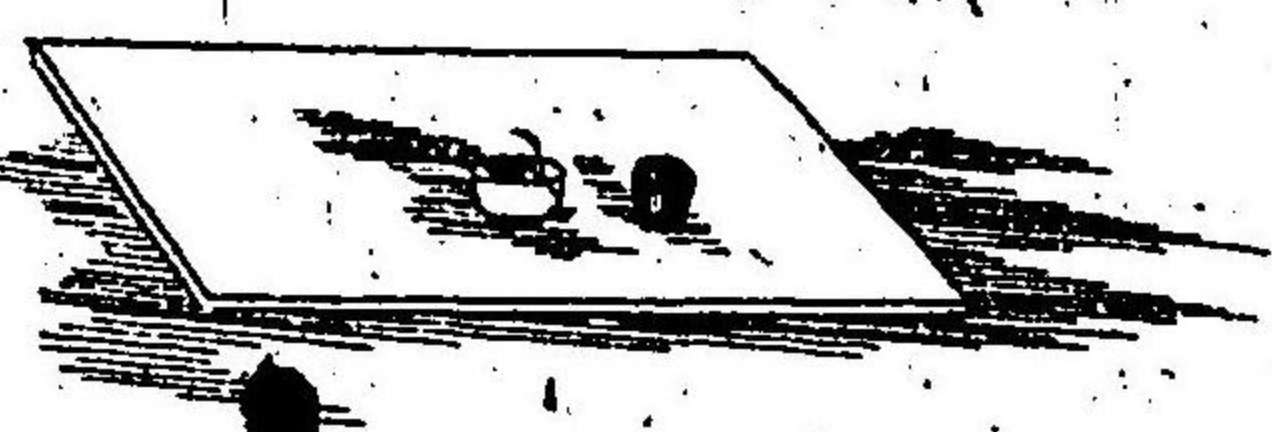
● 竹基子 米光若

● 竹基子 米光若



● 天井

● 竹基子



● 一棚物の由来

● 竹基子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

● 高麗堂子

一派ア立リ宗且ノ季子不殿請州  
侯ニ任テ延享三年十二月十九日歿ス

宗守 一編ノ男大叔ト号ス宝永  
五年正月廿二日歿ス

宗守 文叔ノ男藤々斎真伯ト  
号ス高松侯ニ任テ

宗守 真伯ノ親子直斎又堅豊ト  
ト号ス天明二年二月歿ス

宗守 直斎ノ養子一暖斎休斎  
ト号ス天保九年四月歿ス年六十五

宗守 休斎ノ養子実今日  
兼 柑豊ノ弟好々斎  
ト号ス天保六年二月

宗守 廿二日歿ス年六六  
以心齋ト号ス

宗守 以心齋ト号ス  
コレモ表家渡江齊ノ男  
一栲斎ト号ス現時

官休斎ノ主人

一両けりにて作りては結構に成るは  
紹鷲棚 一名ふくろい

信時ノ三臣にして最モ此ノ所ニ於テ  
のよき大入りハモシ地ニ在リテ  
能ク強クあり指して是レ信時ノ  
時ニ成リ

東塗堂子 大少

今ノ世ニ於テ此ノ所ノ盛衰ハ  
少クハ利便的ナリ多クハ  
今ノ世ニ於テ此ノ所ノ盛衰ハ

及墨子

此ノ所ノ盛衰ハ

爪紅堂子

青澤にて別名目

三木町棚

此ノ所ノ盛衰ハ

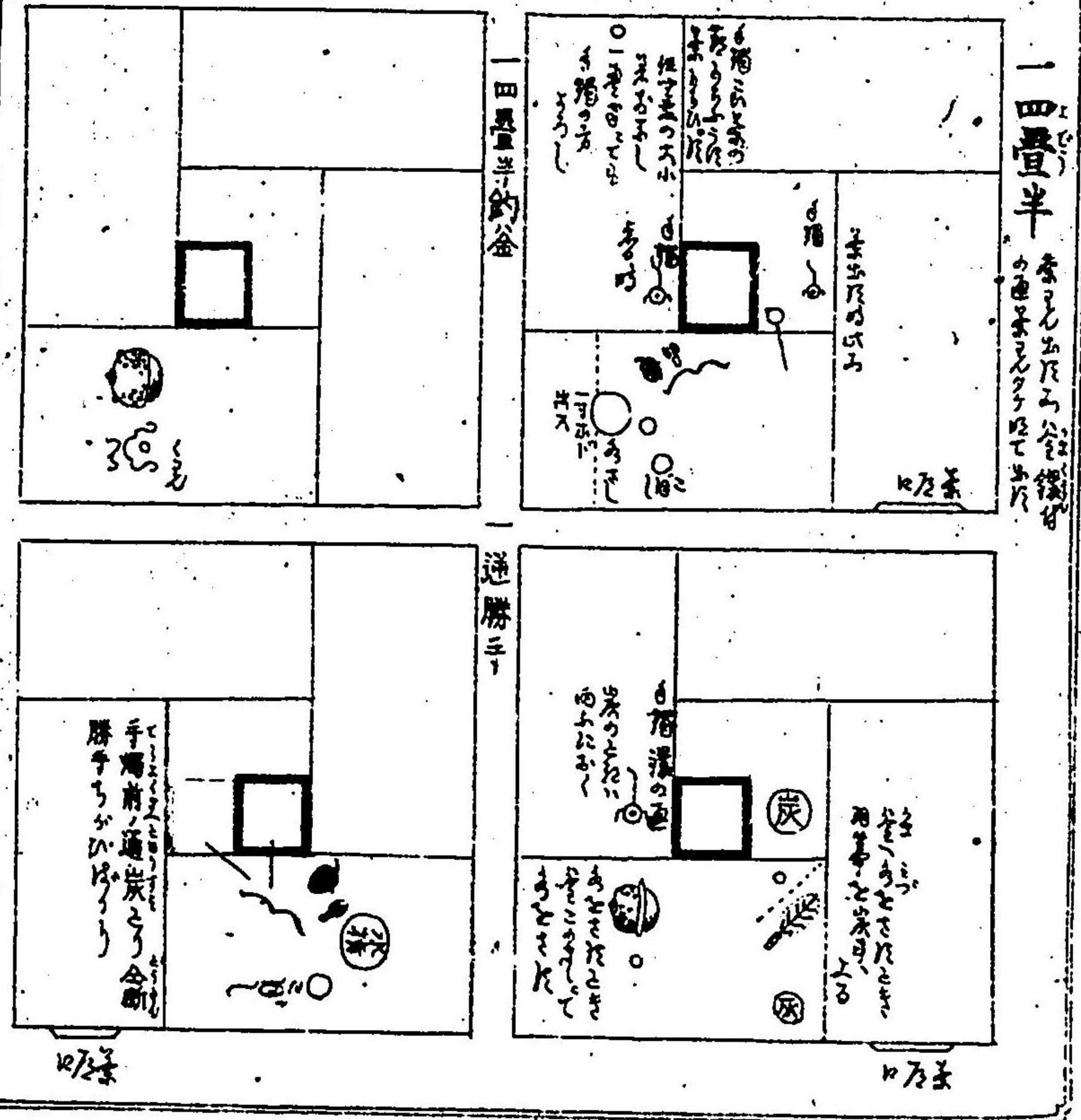
◆釣金の夏

釣金ノ夏ニ至ルニハ  
一田置半 田置半ノ金  
逆勝子 逆勝子ノ金



釣金ノ夏ニ至ルニハ  
一田置半 田置半ノ金  
逆勝子 逆勝子ノ金

釣金ノ夏ニ至ルニハ



**茶書の支**

自來水の濁りを取り除くには、茶葉を入れた瓶に水を満ち、よく揺らす。茶葉の繊維が濁りを吸着するからである。茶葉の量が多ければ、濁りもよく落ちる。茶葉の種類によっても効果がある。

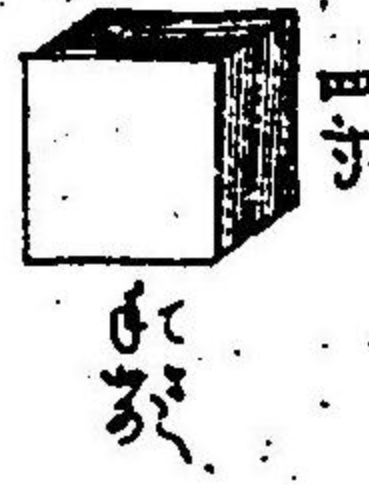
茶葉の香りを抽出するには、茶葉を湯で蒸らす。湯が沸いたら、茶葉を入れた瓶を湯の中に入れて、蓋を閉じてしばらく蒸らす。湯が冷めたら、茶葉を取り出して、湯を飲む。

**灰ホウロク支**

灰ホウロクは、茶葉の茶渋を落とすのに役立つ。灰とホウロクを少量ずつ入れた瓶に、茶葉を湯で蒸らす。灰とホウロクが茶渋を吸着するからである。灰の量が多ければ、茶渋もよく落ちる。

**盆敷の支**

盆敷は、茶葉の茶渋を落とすのに役立つ。盆敷を少量ずつ入れた瓶に、茶葉を湯で蒸らす。盆敷が茶渋を吸着するからである。盆敷の量が多ければ、茶渋もよく落ちる。

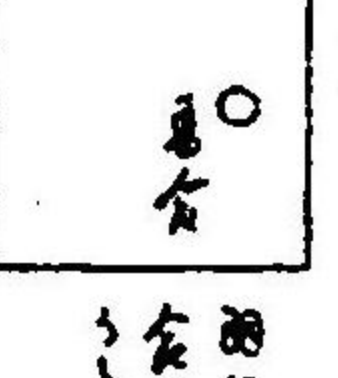
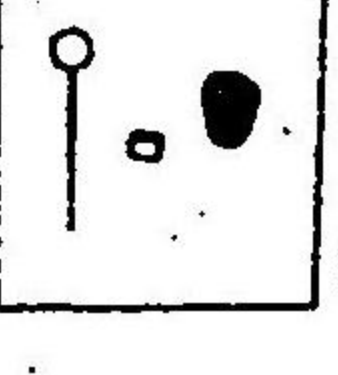
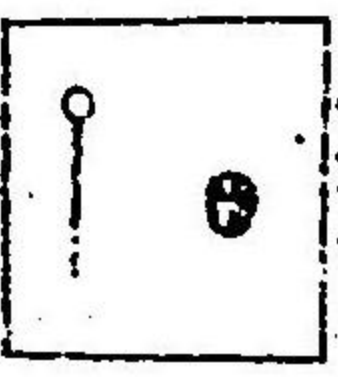


**逆勝手目先無支**

逆勝手目先無支は、茶葉の茶渋を落とすのに役立つ。逆勝手目先無支を少量ずつ入れた瓶に、茶葉を湯で蒸らす。逆勝手目先無支が茶渋を吸着するからである。逆勝手目先無支の量が多ければ、茶渋もよく落ちる。

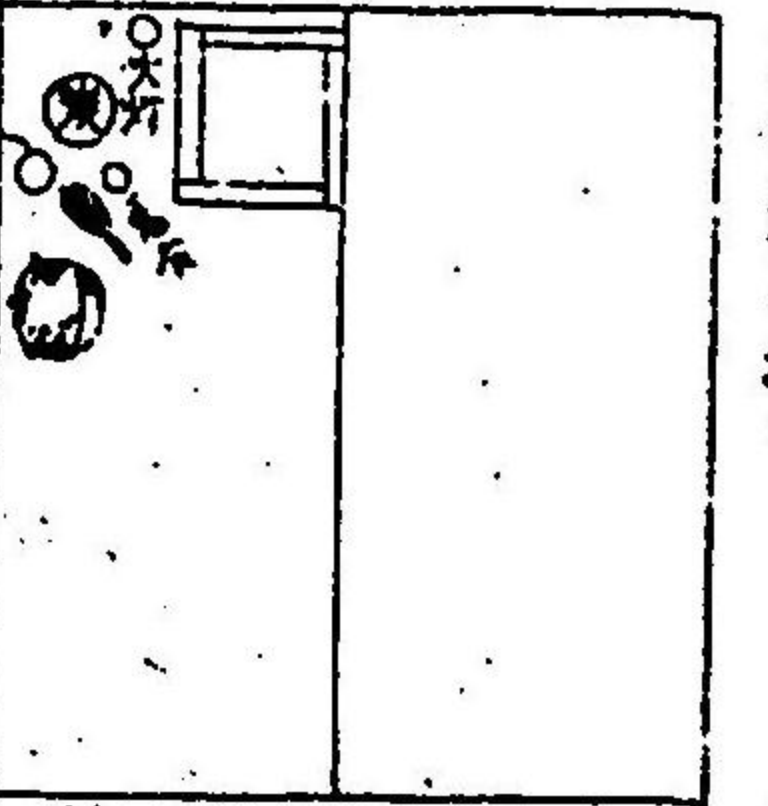
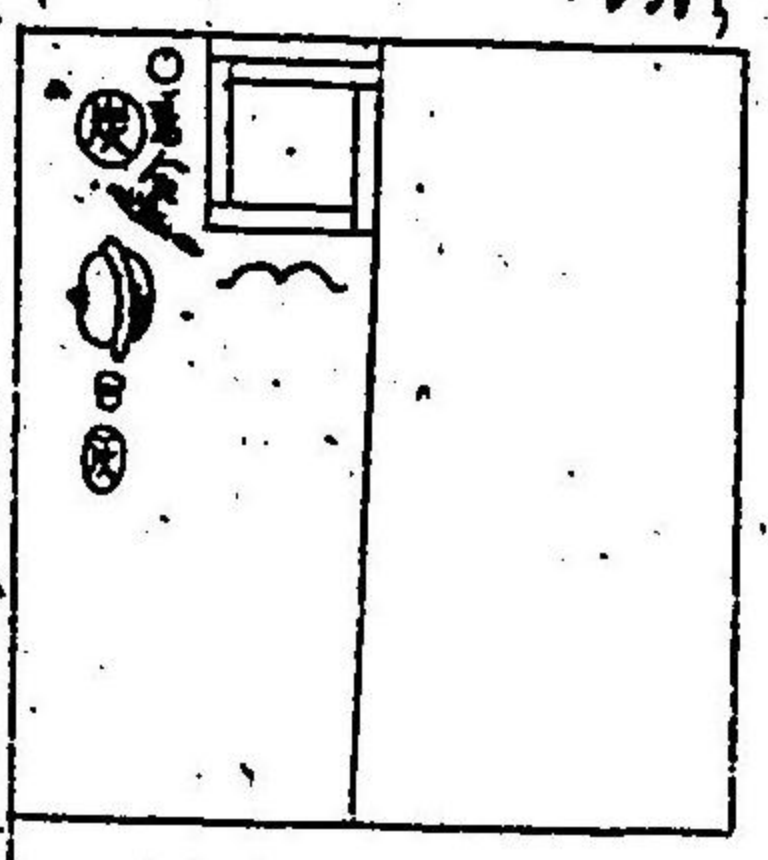
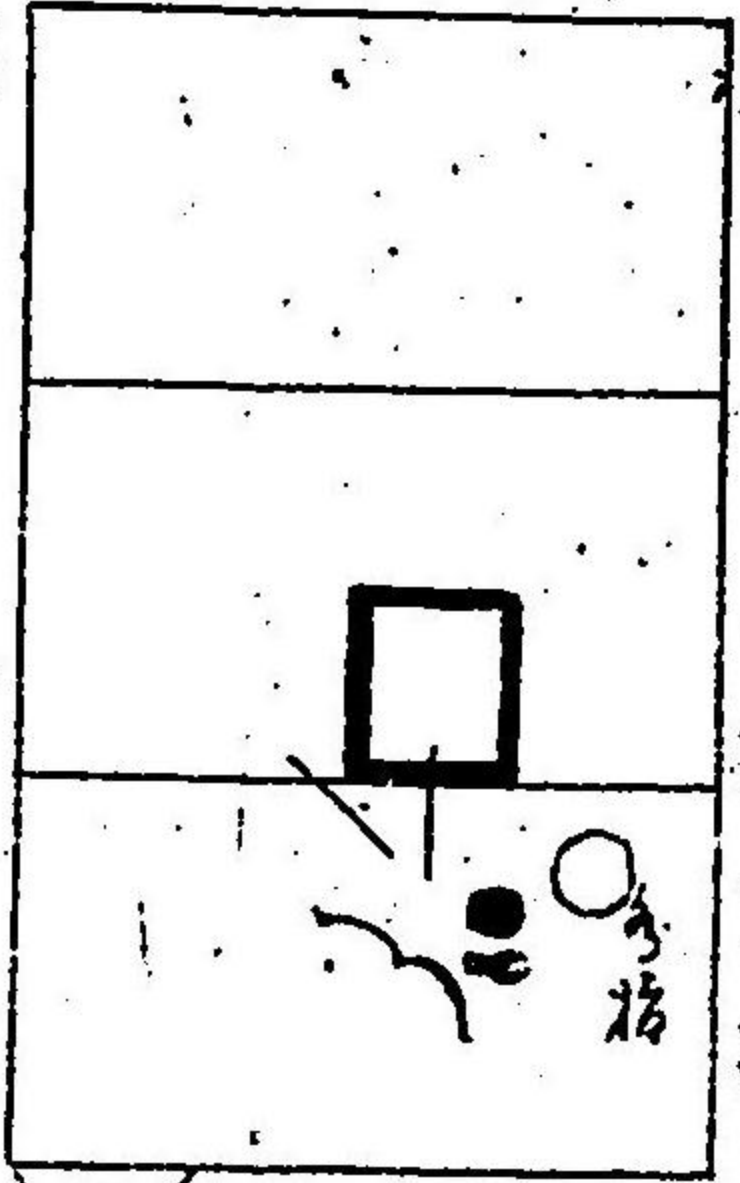
**一隅棚**

一隅棚は、茶葉の茶渋を落とすのに役立つ。一隅棚を少量ずつ入れた瓶に、茶葉を湯で蒸らす。一隅棚が茶渋を吸着するからである。一隅棚の量が多ければ、茶渋もよく落ちる。



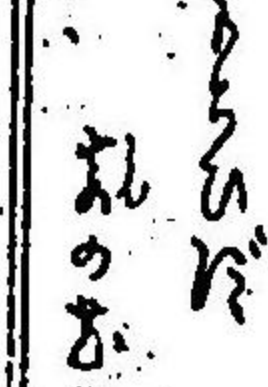
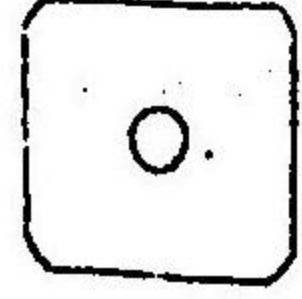
**逆勝手目先無支**

逆勝手目先無支は、茶葉の茶渋を落とすのに役立つ。逆勝手目先無支を少量ずつ入れた瓶に、茶葉を湯で蒸らす。逆勝手目先無支が茶渋を吸着するからである。逆勝手目先無支の量が多ければ、茶渋もよく落ちる。



**花生の支**

花生は、茶葉の茶渋を落とすのに役立つ。花生を少量ずつ入れた瓶に、茶葉を湯で蒸らす。花生が茶渋を吸着するからである。花生の量が多ければ、茶渋もよく落ちる。

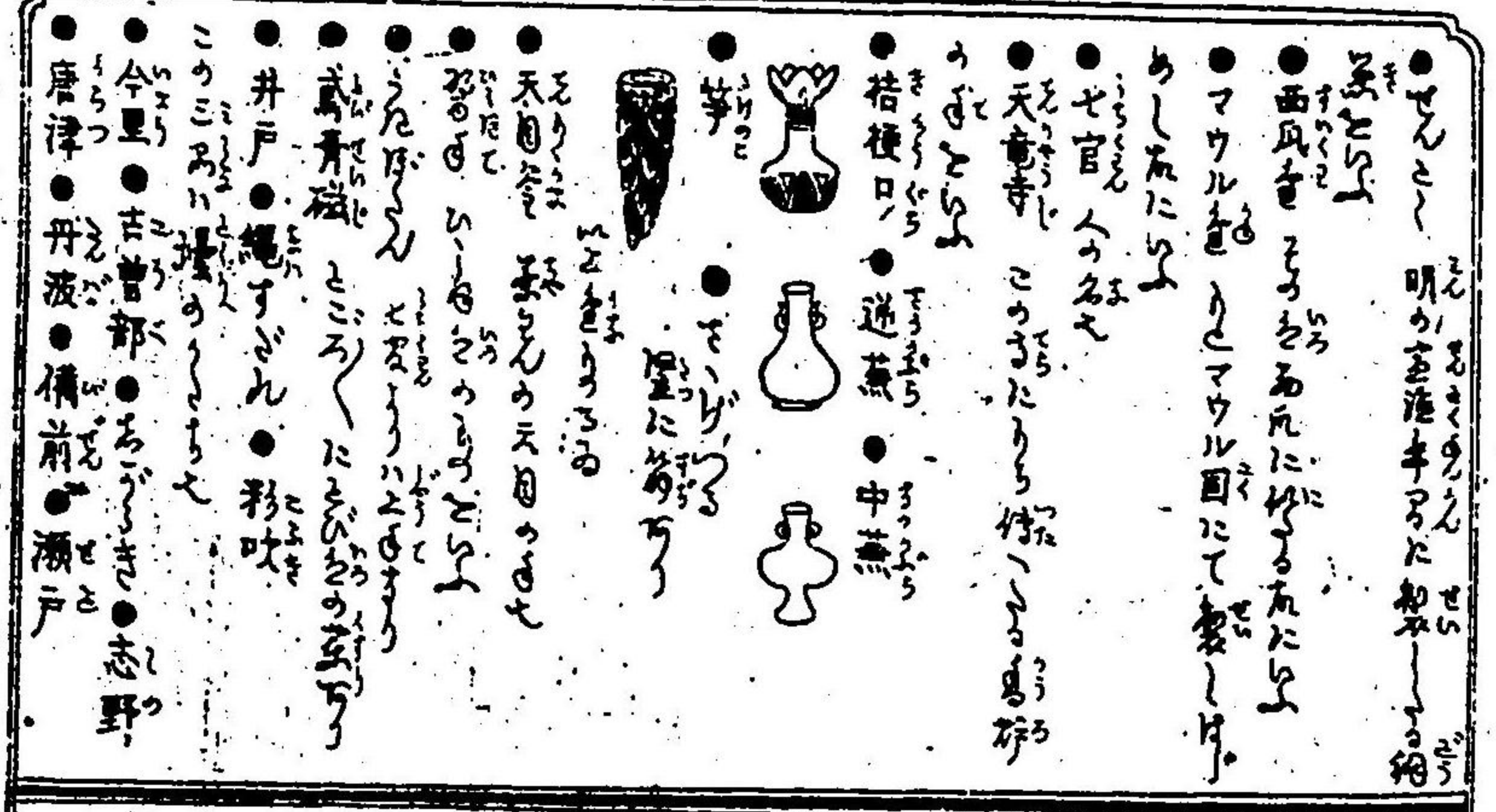
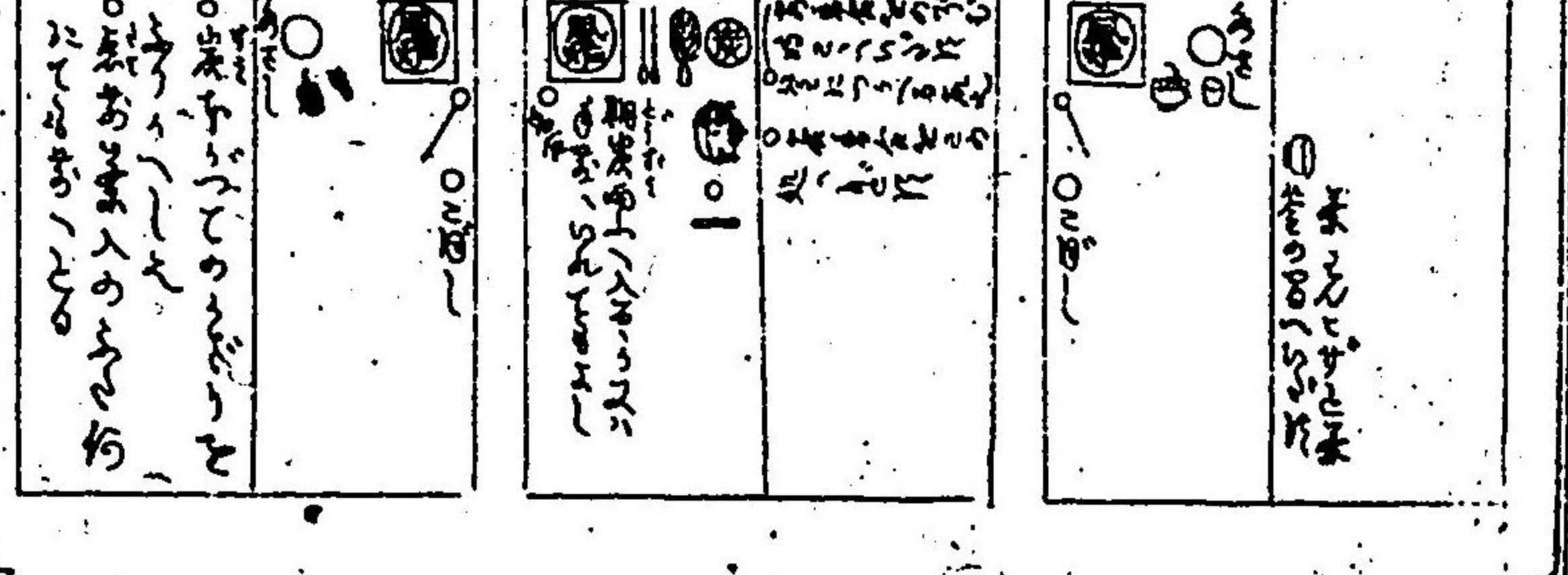




### 一 風爐

上流所 清らかなるものなりて  
 鬼尻 灰積み 風炉 火盆  
 八寸 九寸 一尺 一尺二寸 一尺三寸  
 一 逆勝手

● 逆勝手 鬼尻の灰積み風炉は、火盆の裏側に煙道があり、煙が逆手に出ていく構造である。これは、煙が部屋の中に立ちこめず、煙道から外に出るためである。



### 一 中置

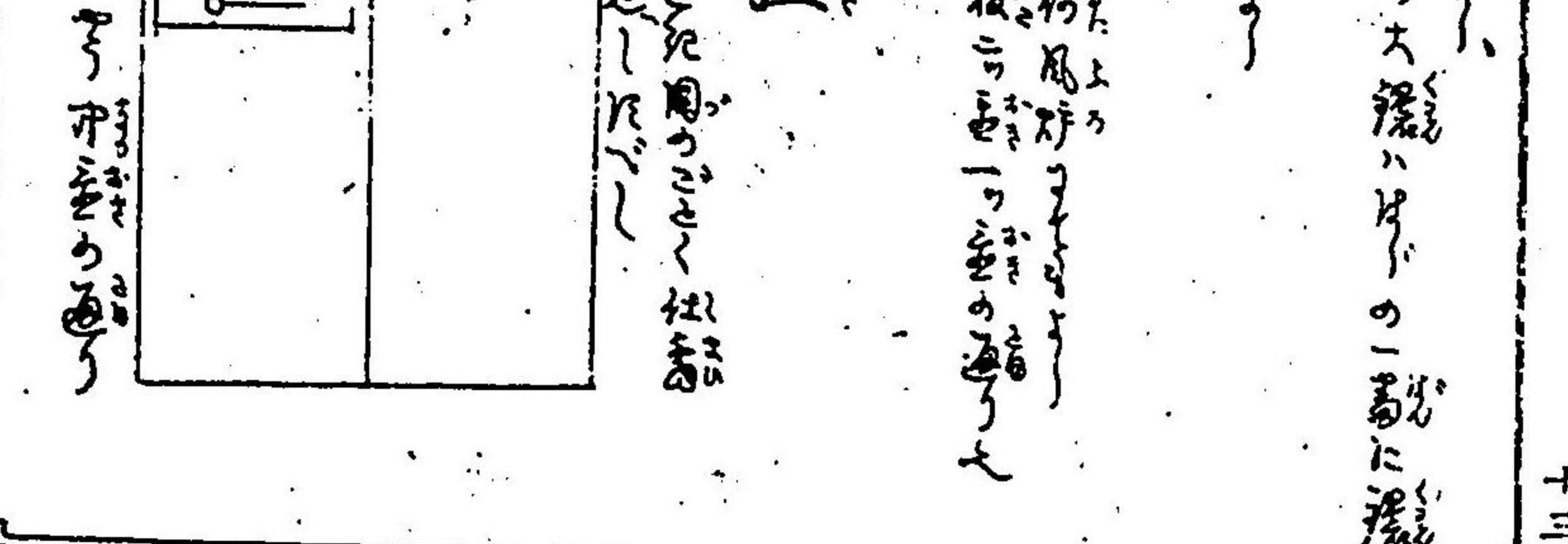
### 一 長板一ツ置

### 一 向板二ツ置

### 一 全一ツ置

● 鬼尻の灰積み風炉は、火盆の裏側に煙道があり、煙が逆手に出ていく構造である。これは、煙が部屋の中に立ちこめず、煙道から外に出るためである。

● 向板二ツ置 長板一ツ置 全一ツ置



● 黄瀬戸 利休所持  
● おうし 檜  
● 伊部 洗紙  
● 舟形 入  
● 鳥帽子  
● 黄瀬戸 茶  
● 舟形 入  
● 鳥帽子  
● 黄瀬戸 茶

● 舟形 入  
● 鳥帽子  
● 黄瀬戸 茶

● 舟形 入  
● 鳥帽子  
● 黄瀬戸 茶

一 全  
二 置  
三 古風点  
四 豊半流シカサリ

● 全  
● 置  
● 古風点  
● 豊半流シカサリ

● 輪 二重  
● 又 二重  
● 二重切

● 輪 二重  
● 又 二重  
● 二重切

一向切逆勝手流点  
四 豊半 手 点茶法

● 一向切逆勝手流点  
● 四 豊半 手 点茶法







端高三寸五分  
足ヲササ九寸六分  
ホノササ六分半  
高サ二寸三分半  
全内二分  
厚二分八厘  
底板厚サ一分三厘

●全一匱合での目  
○各切小刀、柄ノ末ニ  
長サ二寸六分半



○水次

の体ニウツ  
〜〜〜トウツ  
おまけ

●垂拂の事

此ノ事ニハリノ事ニ  
大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

此ノ事ニハリノ事ニ  
大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

一向切左手前

此ノ事ニハリノ事ニ  
大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

一隅爐在事前

此ノ事ニハリノ事ニ  
大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

一風炉位置の事

此ノ事ニハリノ事ニ  
大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

此ノ事ニハリノ事ニ  
大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

●つるびの事

此ノ事ニハリノ事ニ  
大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

●沈まの事

此ノ事ニハリノ事ニ  
大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

此ノ事ニハリノ事ニ  
大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

一風炉手前前

此ノ事ニハリノ事ニ  
大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

一全炭手前

此ノ事ニハリノ事ニ  
大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

一全左手前

此ノ事ニハリノ事ニ  
大分ニハリノ事ニ  
二寸二分  
二寸二分

住し産ぬおわすも馬張りす

さるものにもちのてし

○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり

○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり

○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり

○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり

○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり

○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり



○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり

一 中間中盤



○法衣を履きまよん勢へつゝふり  
さきまをたて法衣を履きまよん  
勢へつゝふり

一 小座敷の事

○法衣を履きまよん勢へつゝふり  
さきまをたて法衣を履きまよん  
勢へつゝふり

● 束帛包

○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり

○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり

○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり

○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり

○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり

○法衣を履きまよん勢へつゝふり

さきまをたて法衣を履きまよん

勢へつゝふり

一 路次仕様の事

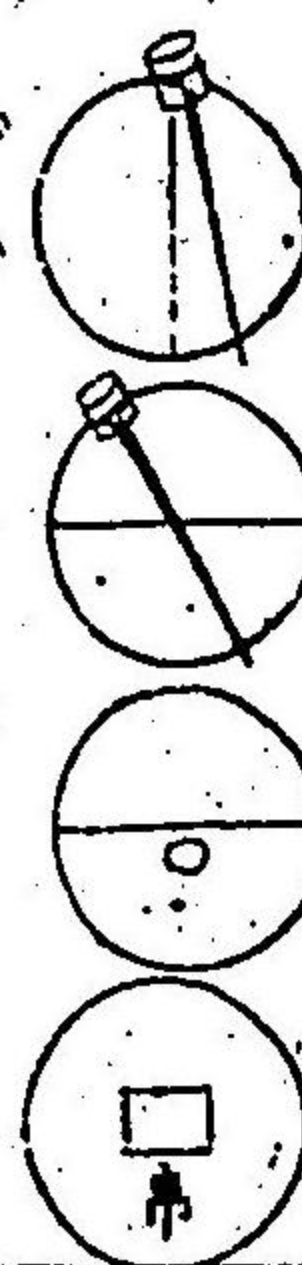
○法衣を履きまよん勢へつゝふり  
さきまをたて法衣を履きまよん  
勢へつゝふり







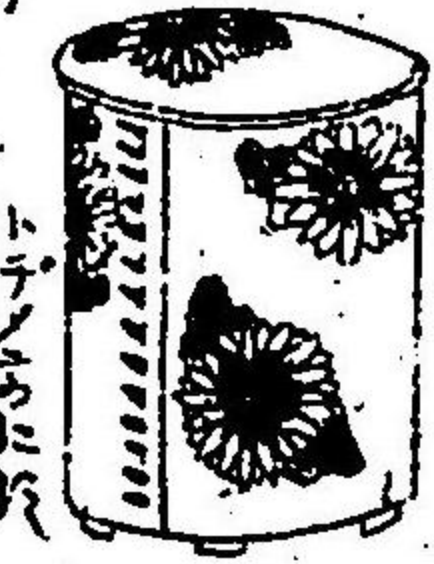
○ 柘杖のてきまじりておろす  
 ○ 江戸茶屋のてきまじりておろす  
 ○ 湯をてきまじりておろす



**曲水注**

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

**菊曲水注**



とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

**拭巾**

**手拭**

**帛**

**茶湯當日口切**

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

**勝手**

**洗茶**

**茶室の心得**

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす  
 とておろすはまじりておろす

○ 菱馬 柳物にて等類の下面  
 ○ 井戸 スリ鉢、こもち  
 ○ 紅毛 西高麗、安南、瀬戸  
 ○ 黄瀬尾 高取、おつ、伊賀  
 ○ 茶の ばき、おつ、おつ、おつ  
 ○ 仁清 仁和寺村の清助とあり、おつ  
 ○ 乾山 光琳の茶三番とあり、おつ  
 ○ 山 光琳の茶三番とあり、おつ  
 ○ 山 光琳の茶三番とあり、おつ

○ 曲建水  
 ○ 長緒 口傳  
 ○ 茶入の外濃茶点品  
 ○ 割蓋 老松、大海、金輪寺  
 ○ 平裏 トホリナリ、茶合

（一） 膳とすらいふに茶入をいれんとて、自らて茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（二） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（三） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（四） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（五） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（六） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（七） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（八） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（九） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

川太助  
 ○ 茶のつたや  
 ○ 茶合 木椀  
 ○ 茶上戸 木合

大サ一寸四分五リン  
 高一寸三分

大サ一寸四分五リン  
 高一寸三分

（一） 膳とすらいふに茶入をいれんとて、自らて茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（二） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（三） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（四） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（五） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（六） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（七） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

（八） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ

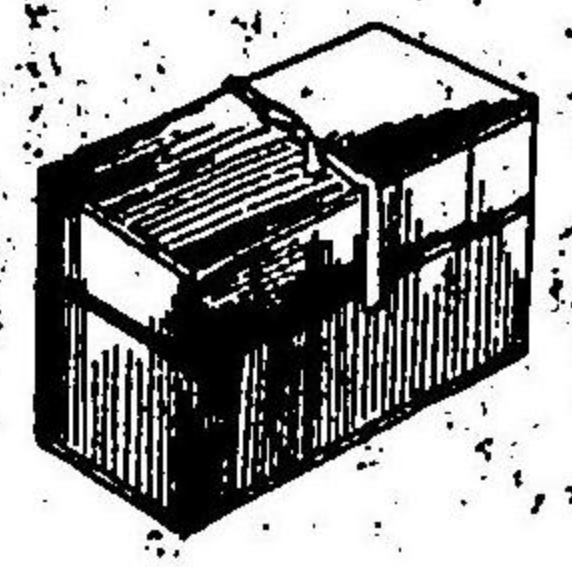
（九） 茶入の蓋をひき、茶をうけ、お茶を茶入れに次ぐ



大サ六寸五分  
高サ一寸五分  
木椀  
大サ五寸五分  
高サ一寸五分

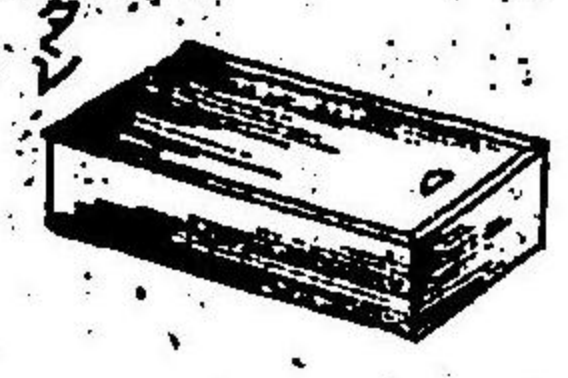
### 茶まじりたせ

長サ五寸九分  
横三寸三分  
高サ三寸六分  
板厚二寸二分  
上ノ重二寸二分半  
下ノ重二寸



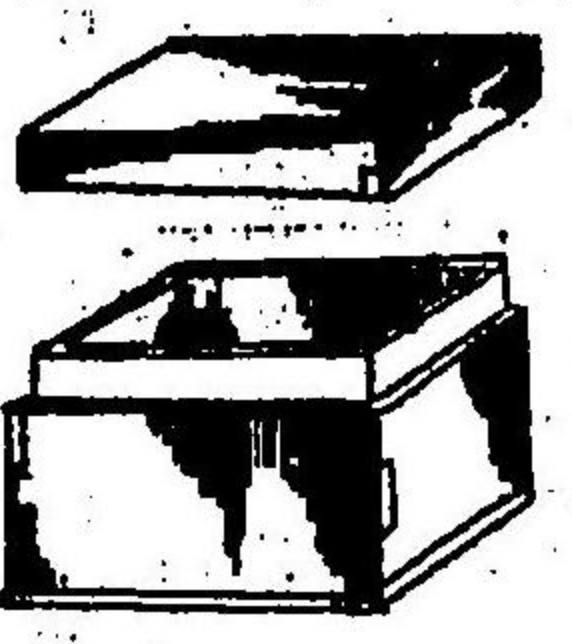
### 茶の袋入

長サ五寸  
横三寸二分高サ全上  
板厚二寸二分  
木ノサシヨリ  
向フノサシヨリ  
蓋板前内ノサシヨリ



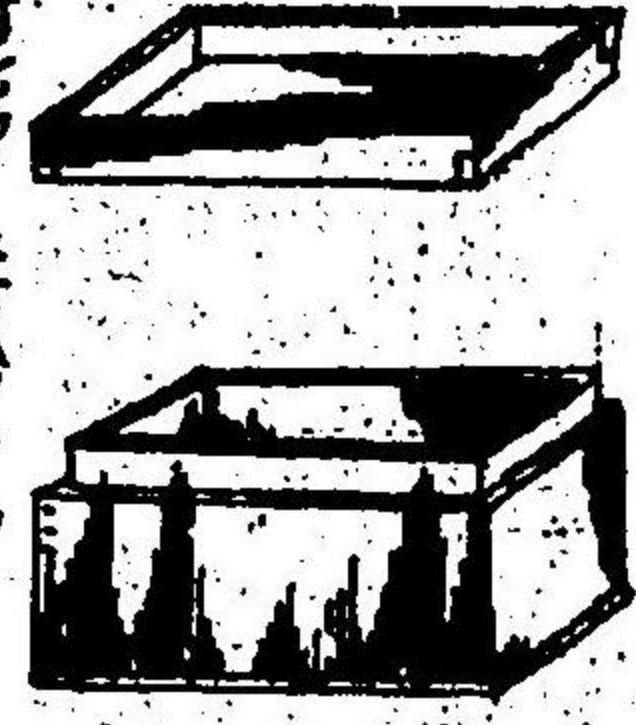
### 茶通管

長サ五寸五分  
高サ三寸五分  
中二寸七分  
タカサ三寸



### 全三ツ入

長サ八寸二分  
中三寸五分  
高サ三寸五分  
板厚二寸二分



此は茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

(十) 茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

(九) 茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

(八) 茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

(七) 茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

(六) 茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

(五) 茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

(四) 茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

外法  
長サ五寸五分  
高サ三寸五分

外法  
長サ五寸五分  
高サ三寸五分

外法  
長サ五寸五分  
高サ三寸五分

外法  
長サ五寸五分  
高サ三寸五分

外法  
長サ五寸五分  
高サ三寸五分

外法  
長サ五寸五分  
高サ三寸五分

茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし

茶の袋入の箱に茶をいれておくに用いられりし



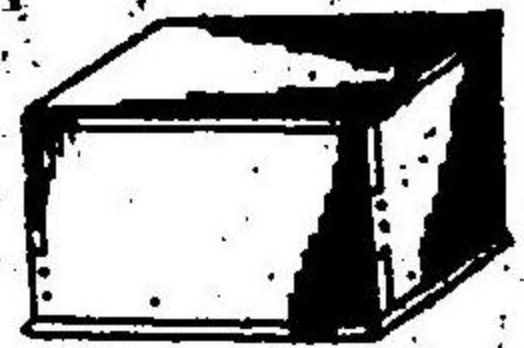
○外法 本ノ高サ七寸カキヤン釘二本ワツ  
○外法 本ノ高サ七寸ニ分六寸

蓋ノカハ高サ七寸カキヤン釘二本ワツ  
外法 タカサニ寸五分

身ニツボコクニ寸二本ワツ 身ニツボコクニ寸  
蓋ノカハ高サ七寸ニ分六寸ニ分厚サ一ノ  
木ツツケル

●全算蓋

○外法 全算蓋  
長六寸 全算蓋  
巾三寸五分 全算蓋  
高五寸五分 全算蓋



●全猫塗

○外法 全猫塗  
長六寸 全五寸五分  
巾三寸五分 全二寸八分半  
高五寸五分 全三寸一分八分

●原更好茶通管

○外法 原更好茶通管  
長六寸三寸 全五寸四分半  
巾三寸五分 全三寸三寸  
高五寸五分 全三寸四分半

板アツサニア 本ノタカサ六分半カキヤン  
蓋ノカハ高サ七ア六分 外法九分八分  
カキヤン釘一本ワツ 身ニツボコク  
二本ワツ 蓋ノ釘五本ニ本底ノ釘四本  
ニ本ワツ

●枕酒茶通管

○外法 枕酒茶通管  
長六寸二分 全五寸七分八分  
巾三寸一分 全二寸二分八分  
高五寸五分 全三寸二分八分

●竹算茶通管

○外法 竹算茶通管  
長六寸五分 全五寸六分三寸  
巾三寸六分二寸 全三寸二分  
高五寸五分 全三寸四分八分  
板アツサ三分 巾三分二分釘未打  
底ノ釘五本ニ本

これハ流石ニ決意シテ造リて居ルハ...  
と云々...  
此ノ本ノ高サ...  
蓋ノカハ高サ...  
身ニツボコク...  
蓋ノカハ高サ...  
木ツツケル...  
全算蓋...  
全猫塗...  
原更好茶通管...  
枕酒茶通管...  
竹算茶通管...

と云々...  
此ノ本ノ高サ...  
蓋ノカハ高サ...  
身ニツボコク...  
蓋ノカハ高サ...  
木ツツケル...  
全算蓋...  
全猫塗...  
原更好茶通管...  
枕酒茶通管...  
竹算茶通管...



掛板

本檜



長サ二尺九寸一分 巾四寸二分 厚四寸五分  
穴上ヨリ七分下ニ七分ニ四分ノ穴

文鳥札

如心斎好

長サ八分

巾四分三リン

厚中テ八リン

取テ半分



床縁

利休好

檜塗木地

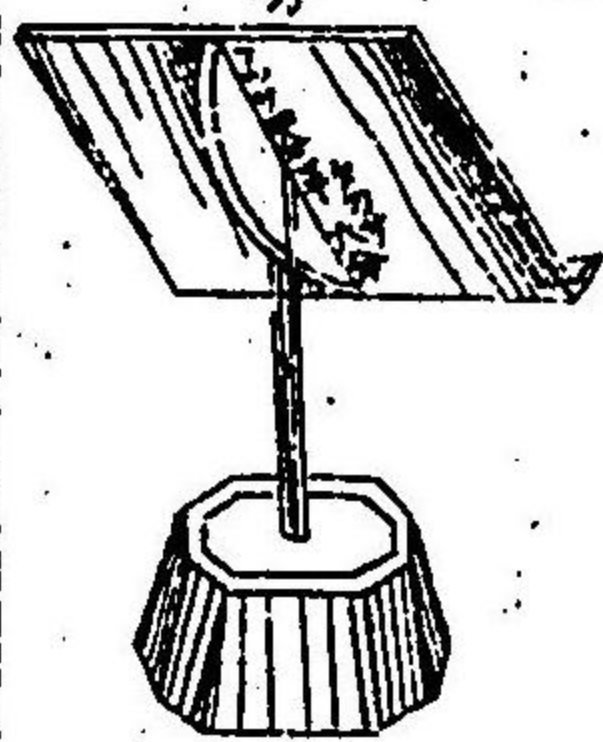
高サ二寸七分

厚サ一寸七分

長サ四尺一寸

利休好

天長サ一尺二寸  
巾八寸三分  
アツサ二分



一、この掛板は、しつぱり一尺一寸五分の長さに、巾四寸二分、厚四寸五分の檜材で造られる。穴は上より七分、下より七分、四分の穴をあける。これは、屏風に掛けるものだからである。

二、文鳥札は、如心斎好の長サ八分、巾四分三リン、厚中テ八リン、取テ半分のものである。これは、鳥の足に掛けるものだからである。

三、床縁は、利休好の檜塗木地、高サ二寸七分、厚サ一寸七分、長サ四尺一寸のものである。これは、床の縁を飾るものだからである。

四、天長サ一尺二寸、巾八寸三分、アツサ二分のものである。これは、屏風に掛けるものだからである。

五、利休好の檜材で造られる。これは、屏風に掛けるものだからである。

六、高サ二寸七分、厚サ一寸七分、長サ四尺一寸のものである。これは、床の縁を飾るものだからである。

七、天長サ一尺二寸、巾八寸三分、アツサ二分のものである。これは、屏風に掛けるものだからである。

八、利休好の檜材で造られる。これは、屏風に掛けるものだからである。

九、高サ二寸七分、厚サ一寸七分、長サ四尺一寸のものである。これは、床の縁を飾るものだからである。

十、天長サ一尺二寸、巾八寸三分、アツサ二分のものである。これは、屏風に掛けるものだからである。

○前、本モタマ高サ八分半アツサ二分  
裡、アリ四分ハナヨリ一寸三分入ル

○臺高サ三寸八分 ノン五分

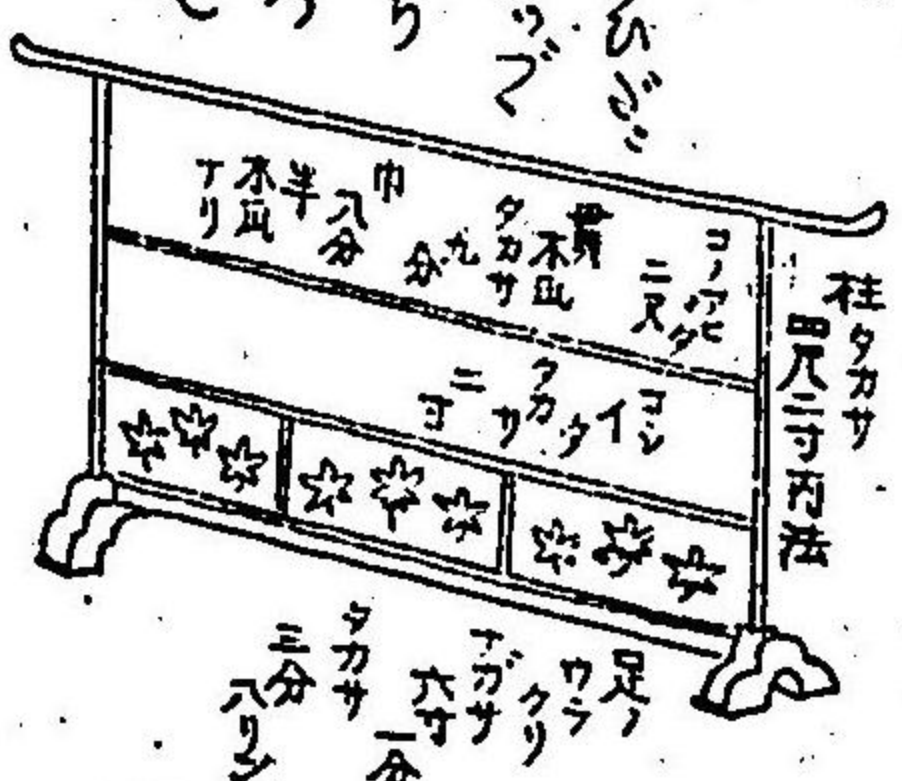
○上、大サ五寸四分 下ニテ五寸八分

○柱タカサ、後口九寸六分ホサ八分上五分半  
八角アリ

素の衣桁

利休好

腰板、三寸のちひび、  
梅のすし、しんぷ、  
松しんぷのちひび、  
縮用、ゆるり、  
とよみ、あしんて



○臺輪ノフトサ

巾一寸八分 高サ一寸

長サ四尺七寸八分

○掛ノ大サ  
長サ一尺三寸 巾三寸三分  
高サ二寸八分 ノン三分半

○この茶湯の支、利休好の檜材で造られる。これは、茶湯の支を飾るものだからである。

一、この茶湯の支は、利休好の檜材で造られる。これは、茶湯の支を飾るものだからである。

二、この茶湯の支は、利休好の檜材で造られる。これは、茶湯の支を飾るものだからである。

三、この茶湯の支は、利休好の檜材で造られる。これは、茶湯の支を飾るものだからである。

四、この茶湯の支は、利休好の檜材で造られる。これは、茶湯の支を飾るものだからである。

五、この茶湯の支は、利休好の檜材で造られる。これは、茶湯の支を飾るものだからである。

六、この茶湯の支は、利休好の檜材で造られる。これは、茶湯の支を飾るものだからである。

七、この茶湯の支は、利休好の檜材で造られる。これは、茶湯の支を飾るものだからである。

八、この茶湯の支は、利休好の檜材で造られる。これは、茶湯の支を飾るものだからである。

九、この茶湯の支は、利休好の檜材で造られる。これは、茶湯の支を飾るものだからである。

十、この茶湯の支は、利休好の檜材で造られる。これは、茶湯の支を飾るものだからである。

● 茶机 利休好

長サ三尺四分 内巾八分 脚ノ下 一尺二寸二分

高サ一尺八寸

厚サ六分

ハシバミ巾一尺二寸二分

高サ一尺一寸

右ノ内筆返シ作付

脚太サ一尺二分半

厚サ一分

クハミズリ厚二分ヨ

脚ノ上ノホツ

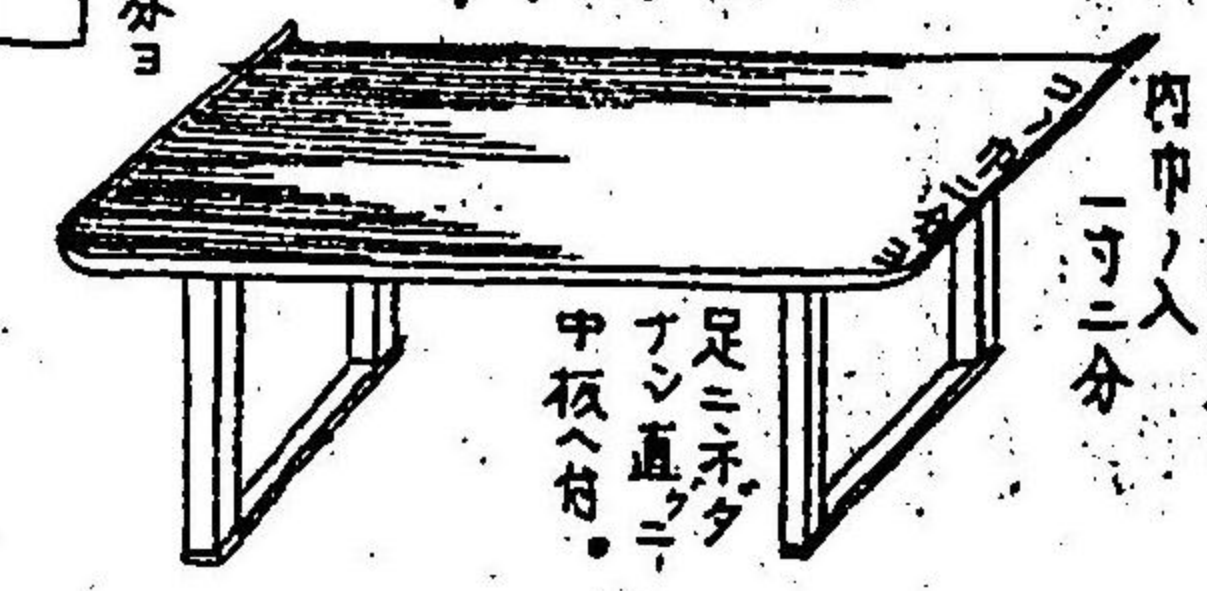
● 素撞木 利休好

長サ二尺五寸八分 下八分

長サ四寸 九寸四分六分

● 大サ

柄の下



茶の湯の湯のつくりは...

● 笥

長サ一尺七寸七分

高サ一尺一寸

● 手拭掛

高サ一尺七寸七分

ハシバミ一尺一寸

重サ七寸スリヲカサセヨ

合ヨコ五寸八分下三寸長サ六寸四分

上ノシニ二分ヨ

抽斗ノカサ三寸三分右トノ付

板アツサ二分半 引クシ厚一分半

● 花切溜

厚サ一尺一寸

高サ一尺一寸

一尺一分

足ノフトサ五寸六分アツサ五分半

ツカサ一尺一分三寸



● 組茶入

○ 手瓶

この茶の湯のつくりは...

○ 釣付

○ 水溜

この茶の湯のつくりは...

○ 油溜

この茶の湯のつくりは...

● 耳付茶入

この茶の湯のつくりは...

● 傳授前の筒係

この茶の湯のつくりは...



カハ三寸八分半  
高サ一寸

板アツサ二分半

手高六寸二分

木サ六分二分半

総タカサ六寸八分半  
上ハトツテ長サ九寸二分 下ハ四寸四分

七分 四分半

### 松手付煙草金

箱好

長サ九寸八分

中サ七寸八分

タカサ二寸二分

板アツサ二分余

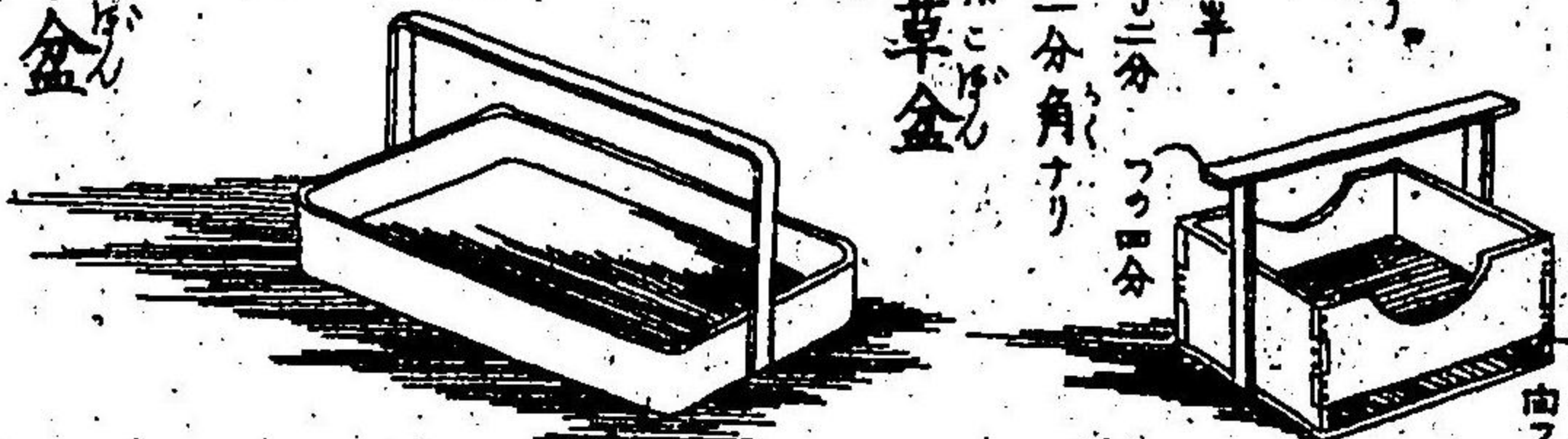
手ノタカサ  
九寸三分

中五分

厚サ四分

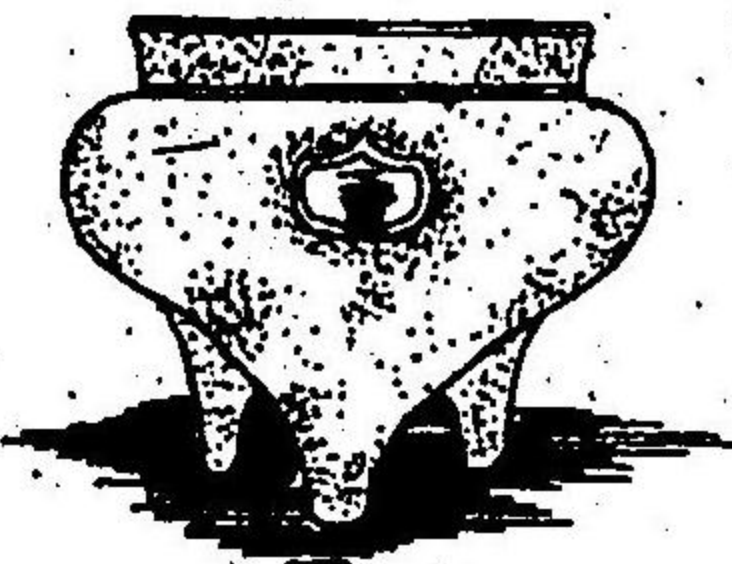
### 線手煙草金

如心齋このミ



下ハ七寸二分  
由ツテ

四寸一す七分

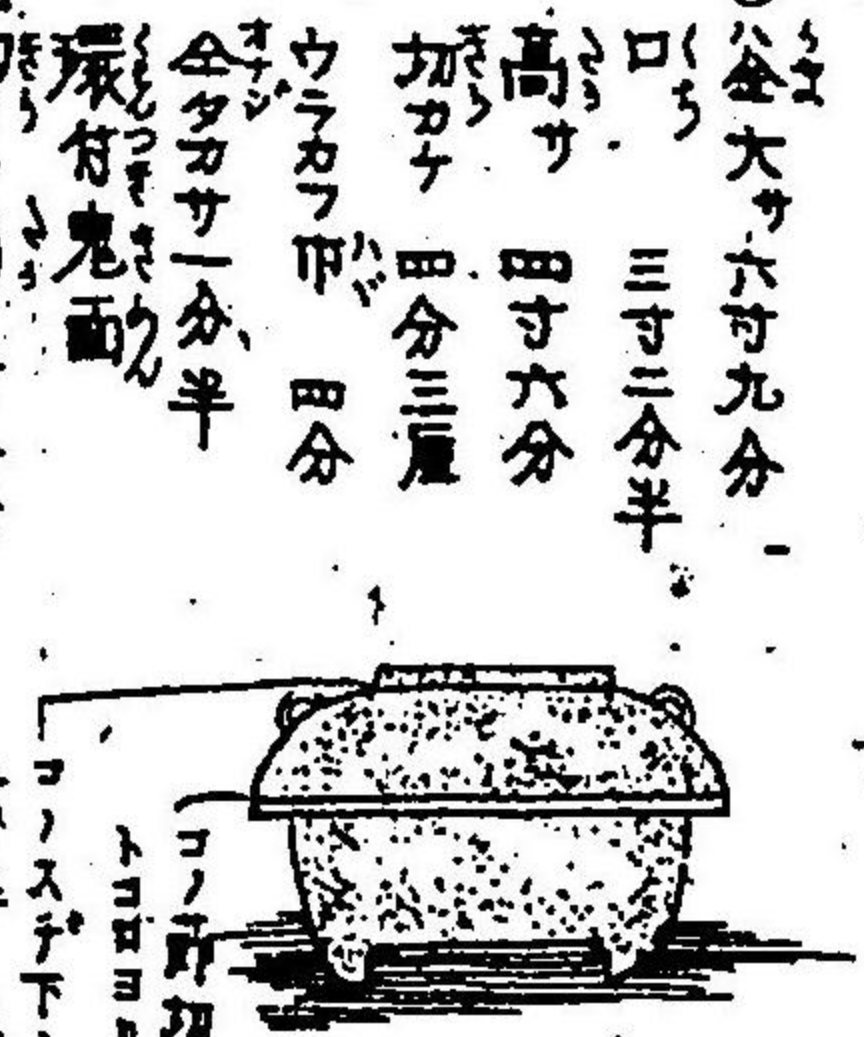


### 風炉の種類

○ 口 三寸二分半  
高サ 四寸六分  
カカサ 四寸三分  
ウラカサ 四寸

○ 金大サ六寸九分  
高サ 三寸二分半  
カカサ 四寸三分  
ウラカサ 四寸

○ 板アツサ一分半  
深付鬼面  
カカサ高サ二寸一分  
底ノ穴ウケ三寸七分



上圖の流標風炉に各所ハしハ  
炭付風炉ハ  
コノ形ハカケナ  
トコヨリ四分  
コノ下ノスチヨリ  
二分半ノ穴ナリ

○ 外法長サ二寸五分  
横五寸五分 高サ二寸五分  
アツサ二分半

○ 手ノ中七分 アツサ二分

高サ七分二分半

手ノモト煮カス

鉄三不打ツ

つぼく 如心齋

又玄齋好

○ 外法 ナカサ九寸

中六寸

タカサ二寸七分半

板アツサ二寸

○ 如心齋好

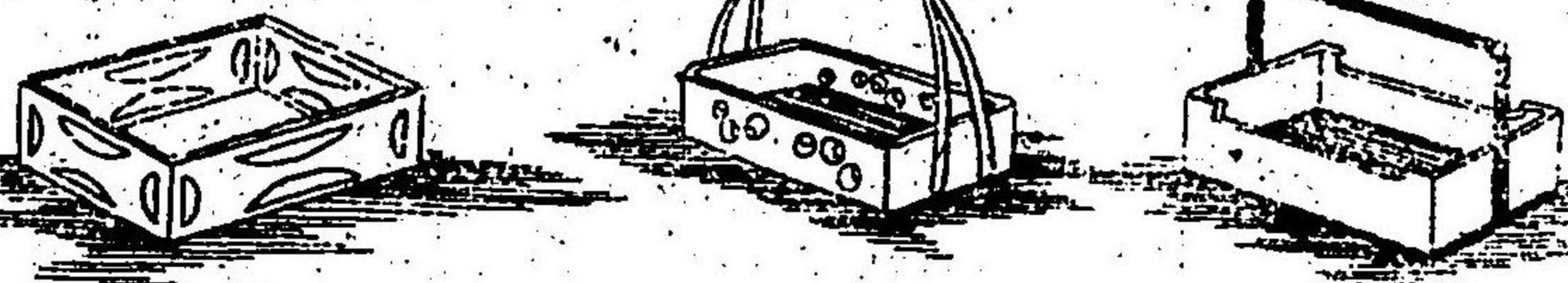
○ 外法

長サ八寸五分

横五寸七分

高サ三寸五分

厚二分二厘



六九

○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に

○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に

○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に

○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に

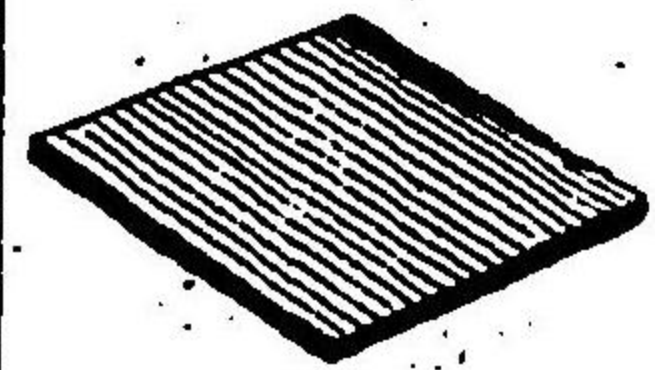
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に

○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に

○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に

○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に

○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に  
○ 風炉 又大板と同一尺四寸半子板中と亦形に

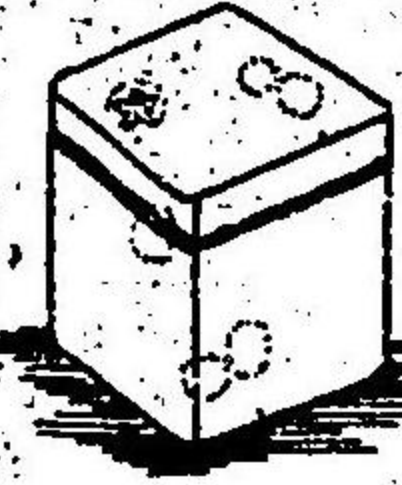


八寸一分 七寸七分半  
又四分八リ

桐箱トウバコ

外法

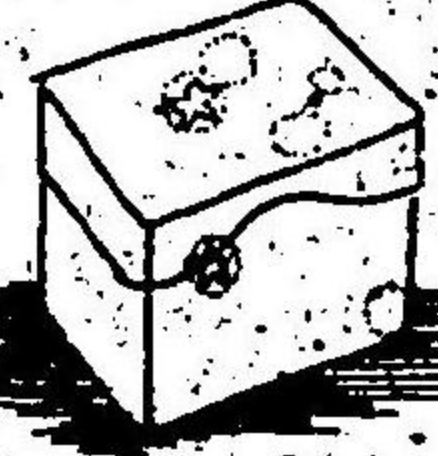
大サ三寸四方  
 高サ二寸一分半  
 板アツサ一分  
 蓋カフタカサ四分半アツサ一分二リ  
 身ノタカサ内法一吋一分半



全セン

外法

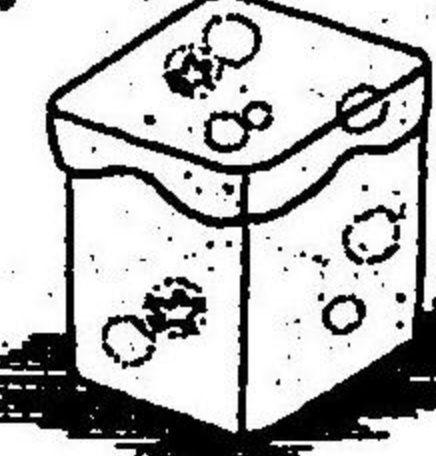
大サ二寸七分  
 ヨコ二寸三分  
 タカサ一吋六分  
 蓋アツサ四分八リ  
 ヨコ二寸五分三リ  
 板アツサ一分二リ



杉箱シノバコ

外法

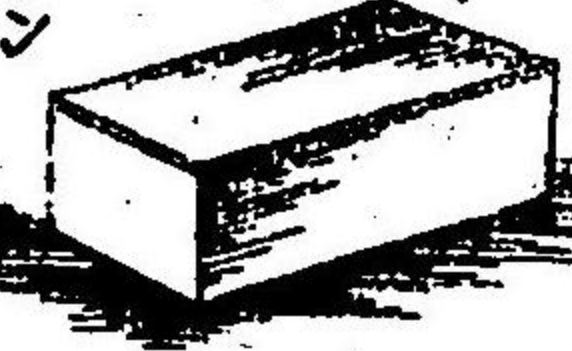
大サ二寸ア半四方  
 タカサ一吋六分  
 板アツサ一分三リ  
 フタ大サ二寸七分四方  
 カハタカサ七分外法



素箱ソウバコ

外法

長サ二寸六分  
 巾二寸一分  
 タカサ二寸 板アツサ一分半  
 シヤクリフタ厚サ一分八リ  
 外ニ金甲ノシヤクリ面付



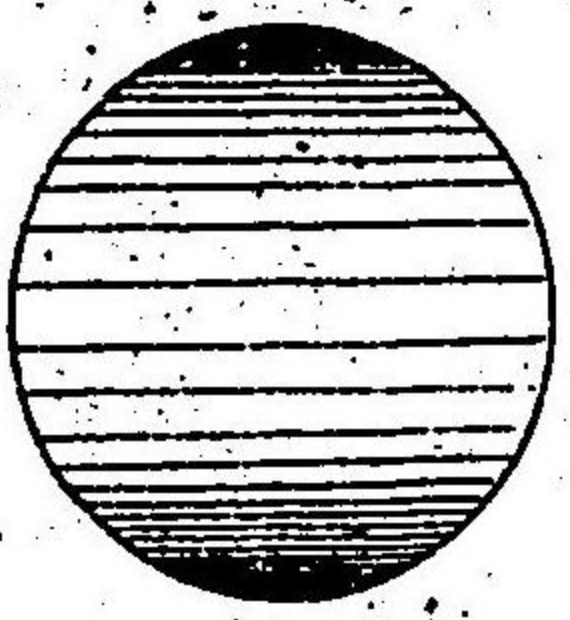
一開四方硯箱

利休好

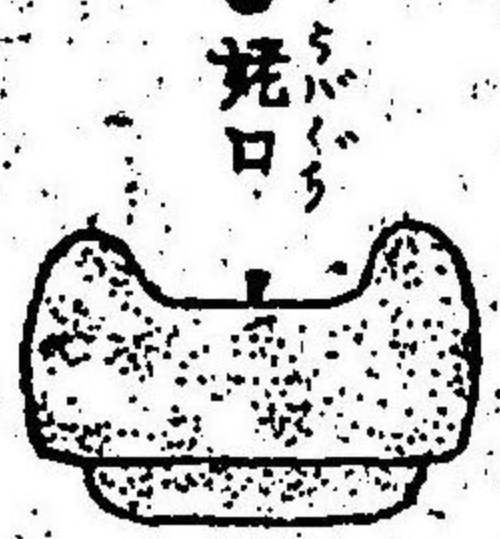
大サ六寸四方  
 高サ一吋三分  
 身ノ内四角ニユ  
 八分ニ二分ノ四方ノ  
 ノラツケル  
 蓋大サ六寸八分  
 タカサ九分 板厚ノ大サ六寸  
 縁板ノ厚一分半



丸板



釜の種類



釜はよくては備へて置くべきなり  
 ○作りはあつたつきに作りしに  
 作りはあつたつきに作りしに  
 作りはあつたつきに作りしに  
 作りはあつたつきに作りしに

巴釜



輪口



百會



針箱

針箱はよくては備へて置くべきなり  
 ○作りはあつたつきに作りしに  
 作りはあつたつきに作りしに  
 作りはあつたつきに作りしに

○鏡

○小刀

○封書板



長サ五寸 巾一寸六分 厚二分

### ●焼杉文書

○外法

長 六寸九分

巾 二寸五分

タカサ五寸一一分

キの高三分

蓋ノカのタカサ六分半 巾二分 底へ取回シ



○内法  
ナカサ六寸四分  
巾二寸五分半  
タカサ  
一寸二分半

### ●菊画文庫

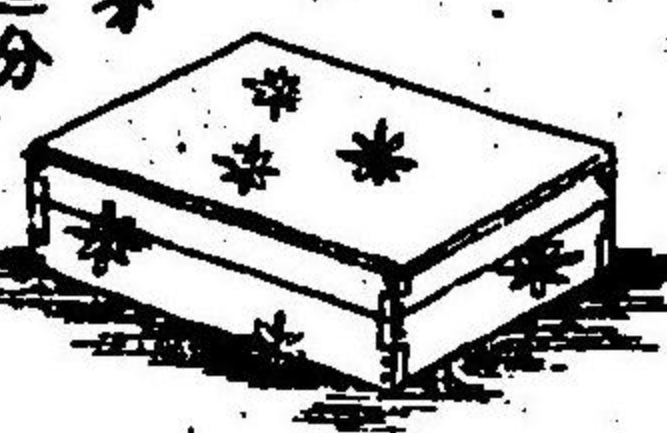
○外法

長 一尺二寸一分 巾九寸

タカサ三寸六分

蓋ノカ九分 巾一ト三寸二分

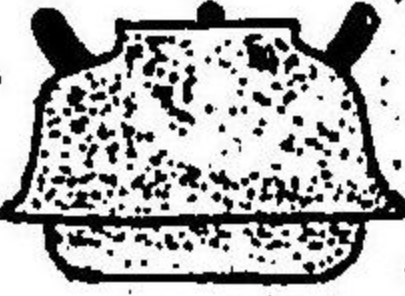
キの高七分 巾一ト二寸三分



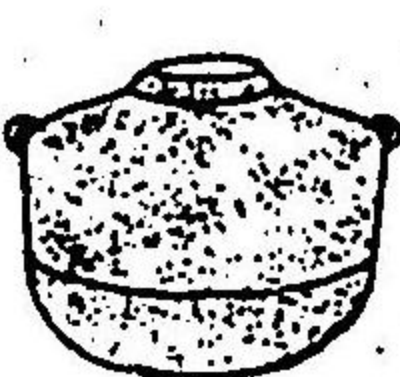
### ●常盤



### ●唐犬



### ●廣口



●常盤 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし  
●唐犬 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし  
●廣口 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし  
●阿弥陀堂 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし  
●尻張 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし  
●十五口 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし  
●目取丸 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし  
●相盆 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし  
●天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし

### ●山姥文庫

○外法

長 一尺二寸四分半

巾 九寸六分

高 五寸四分

板アツサ四分半

テシロシサシキ高サ二分

厚二分 フタカワ高サ一分半

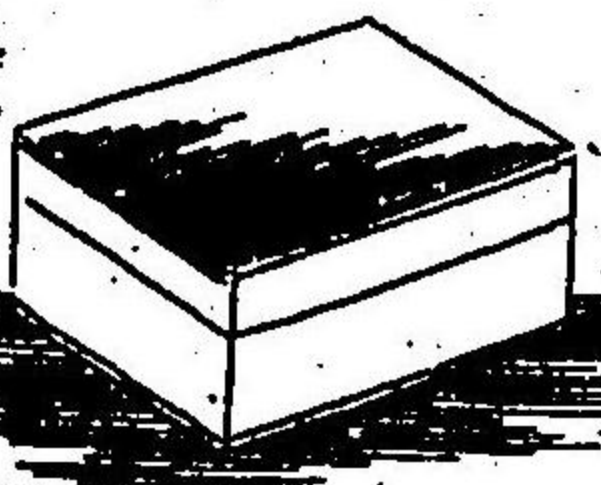
二分半 シヤクリコ

蓋ッコ釘五本ツバシコ厚三分

○内法

長 一尺五分八リシ 巾八寸七分

タカサ三寸九分五リシ



### ●椀木書

○外法

長 八寸五分半 横 二寸九寸 高 三寸二分

利休好

●天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし

●唐犬 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし

●廣口 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし

●阿弥陀堂 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし

●尻張 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし

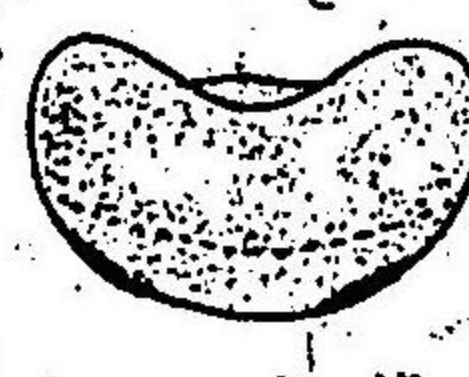
●十五口 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし

●目取丸 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし

●相盆 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし

●天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし

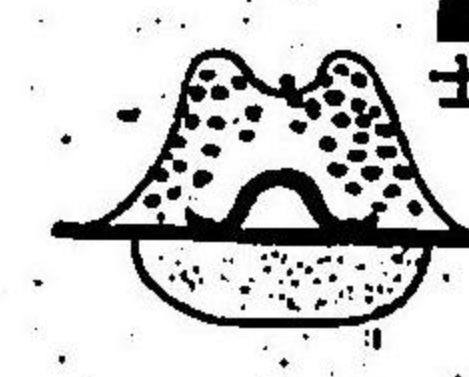
### ●乙女



### ●黄紐



### ●口田方



●乙女 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし  
●黄紐 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし  
●口田方 天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし  
●天柵作 又はおのこ 種竹作 又はし



板アツサ三分二リシ  
三ツホソサシ釘一本ツッ  
指込フタ向へ五分リキトハ  
横カハ前向ヒキク  
ソノ釘長ニ本ヨコニ本

**全** 仙叟好  
外海  
長八寸三分 巾三寸五分  
タカサ三寸八分半  
板アツサ三分八リシ  
三ツホソサシ釘二本  
三ツホソサシ釘二本  
三ツホソサシ釘二本  
三ツホソサシ釘二本

●**蓋の口切管**  
長七寸 巾五寸  
鐵タカサ四寸六分  
板アツサ二分  
上ノ重一寸四分  
下ノ重三寸 蓋マリサン  
重七七分 但シ二尺四方ノ紙一本入ルセ

●**ときハ合** 箱中ノ水ヲ清ク作ル  
●**タツマ** 水ヲ清ク作ル  
●**鹿** 水ヲ清ク作ル  
●**重龍** 水ヲ清ク作ル  
●**電** 水ヲ清ク作ル  
●**夫昔金** 水ヲ清ク作ル

●**ときハ合** 箱中ノ水ヲ清ク作ル  
●**タツマ** 水ヲ清ク作ル  
●**鹿** 水ヲ清ク作ル  
●**重龍** 水ヲ清ク作ル  
●**電** 水ヲ清ク作ル  
●**夫昔金** 水ヲ清ク作ル

○**封シ板** 長六寸 巾二寸五分  
アツサ三分

●**桐二重々管** 利休好  
長サ六寸六分半  
巾 六寸二分半  
タカサ一寸九分上下トモ  
板アツサ一分半ツヨシ  
蓋アツサ二分八リシ  
ノシ二分  
まんわハ一分半ニ一分二リシ  
上下ノ重トモニ打ッ

●**釣瓶水注** 利休好  
外海  
長サ上七寸七分半  
ヨコ 上七寸  
内法  
深サ五寸五ア  
板アツサ三分三リシ  
タカサ五寸八リシ  
タカサ全断

●**柳盆** 土壇に置く  
●**手取** 水ヲ清ク作ル  
●**四方** 水ヲ清ク作ル  
●**金師小傳** 水ヲ清ク作ル

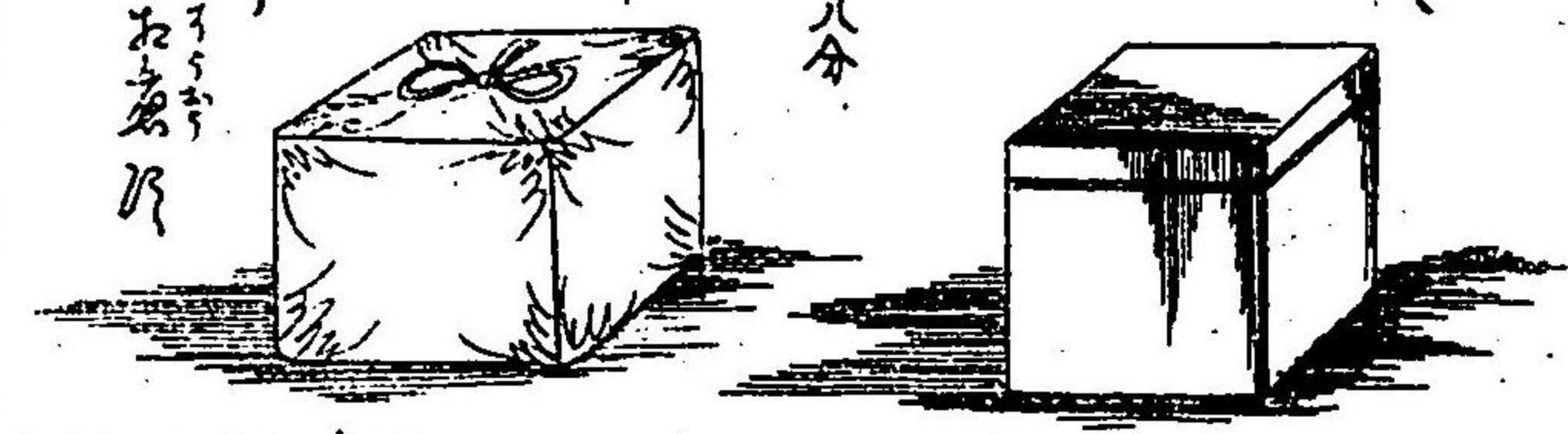
●**柳盆** 土壇に置く  
●**手取** 水ヲ清ク作ル  
●**四方** 水ヲ清ク作ル  
●**金師小傳** 水ヲ清ク作ル



高サ六寸三分ノ内上板四分下板五分  
 入り一尺八寸ヨロ巾 横板ノ外左右八分ツ  
 入り前後トモ一寸ツ

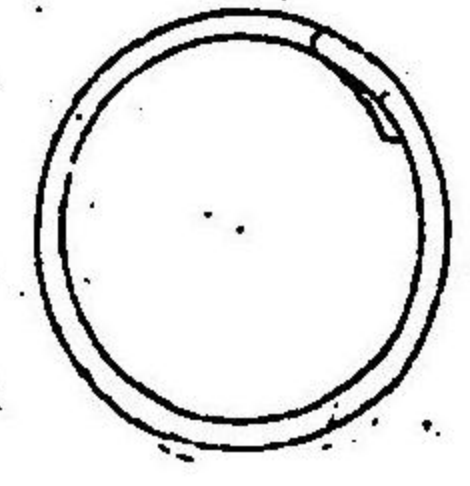
●茶箱 利休のうら

桐あら木  
 底ヨリ蓋ノ上マデ  
 総タカサ四寸二分  
 外法二寸四分  
 横サカサ七寸二分  
 タツ全四寸九分  
 内ノノカサ三寸八分



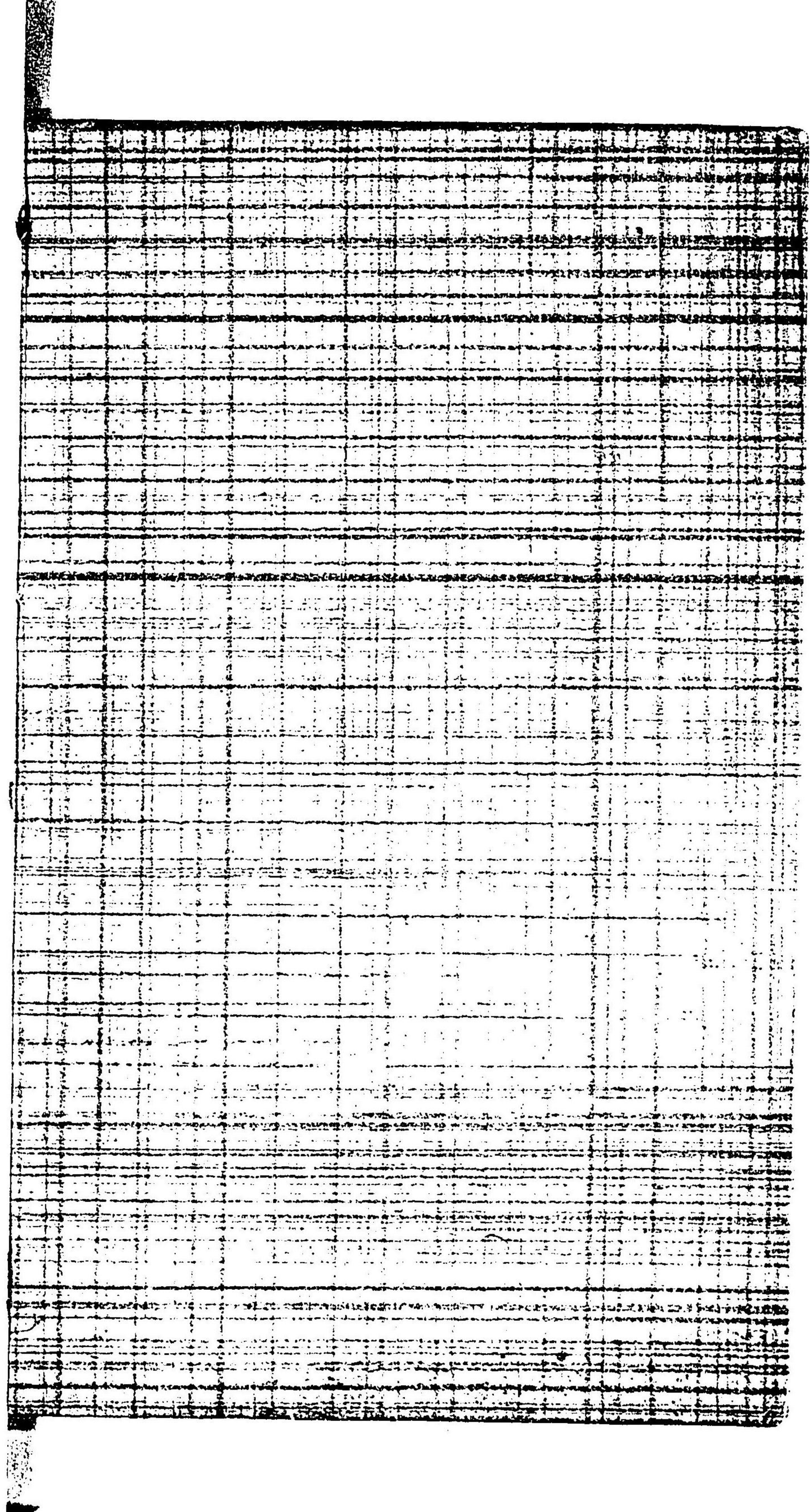
●全袋  
 袋地唐紙  
 不修  
 長紙  
 初体  
 袋の寸法袋におおる

小のうらの方のうらに...  
 深 提者ハ皆唐紙...  
 外板形茶箱このうらにて...  
 ●銀  
 ●鉄環 石ツギ目アリ 外法三寸三分半 太サ二分二分半  
 ●唐金環 左 カキ 外法三寸二分半 太サ二分マロシ  
 真鍮ノミカキニテ作ル但シ右環アリ  
 真鍮ノミカキニテ作ル但シ右環アリ  
 真鍮ノミカキニテ作ル但シ右環アリ



●金釘  
 外法タカサ  
 二寸八分  
 ヨロ巾三寸  
 外法七寸八分  
 ●大壺意ツリ  
 ●小壺意ツリ  
 外法タカサ  
 六寸八分  
 外法タカサ  
 五寸六分半  
 外法  
 五寸四分  
 外法  
 太サ一分半

増補茶式湖月抄上巻 畢



特42

786

075846-001-8

特42-786

茶式湖月抄 (增補)

湖月 老隱 / 著

上

M26

CEN-0066



特 42

786